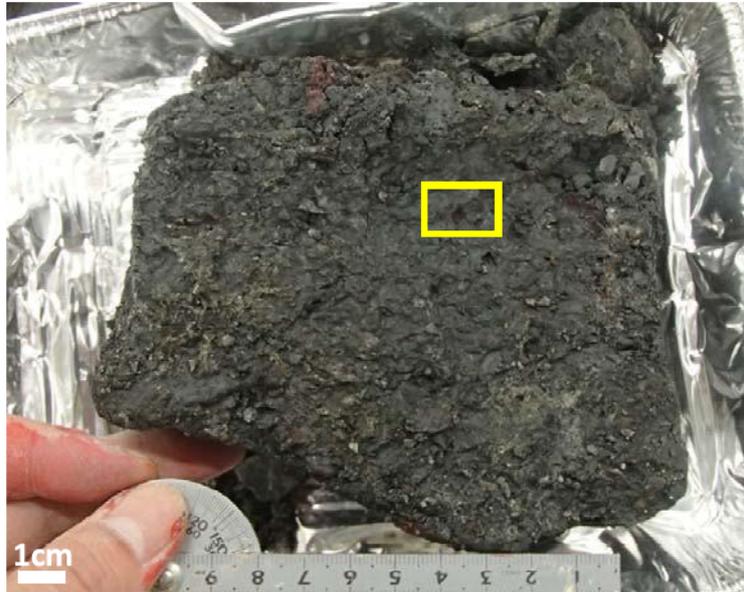


条線観察面1



下盤上面



面の状況

条線は認められない。

第 3.2.92 図(1) 三方断層 新道北東方の破碎部 ブロック試料の
条線観察結果 (Loc. M-4) (1)

条線観察面2



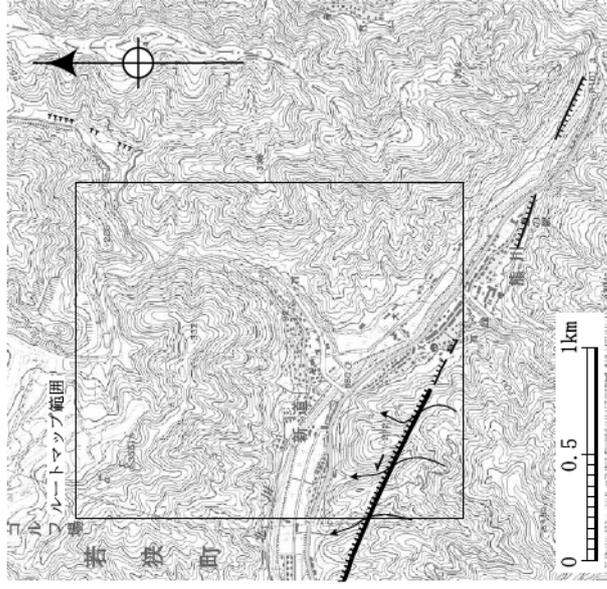
下盤上面



面の状況

条線は認められない。

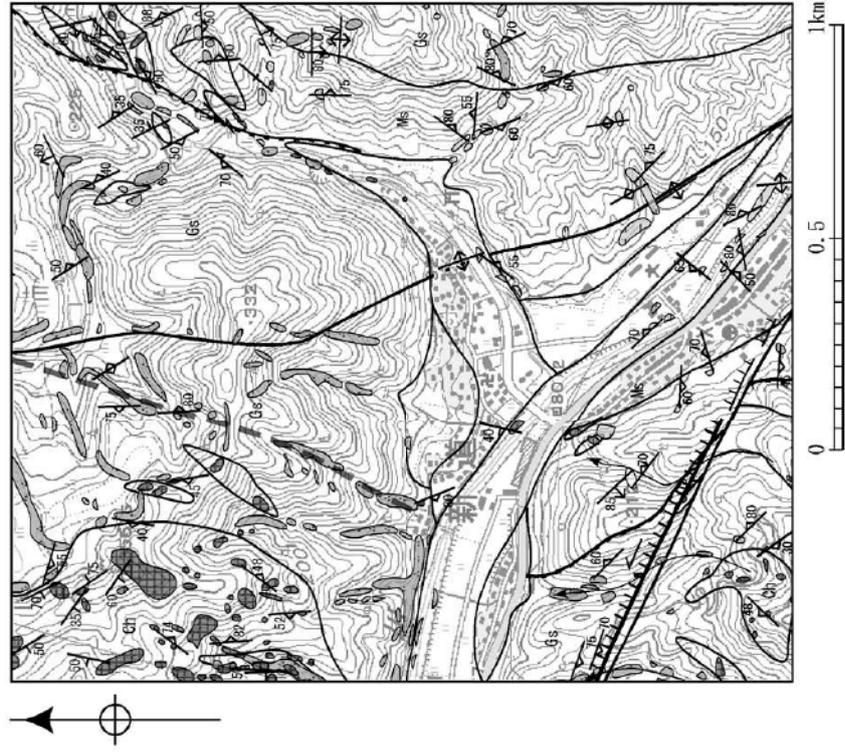
第 3. 2. 92 図(2) 三方断層 新道北東方の破碎部 ブロック試料の
条線観察結果 (Loc. M-4) (2)



「この地図は、四士地測院長の承認を得て、同院発行の
数値地図25000（地図原簿）を複製したものである。
（発番番号 平27情報 第299号）」

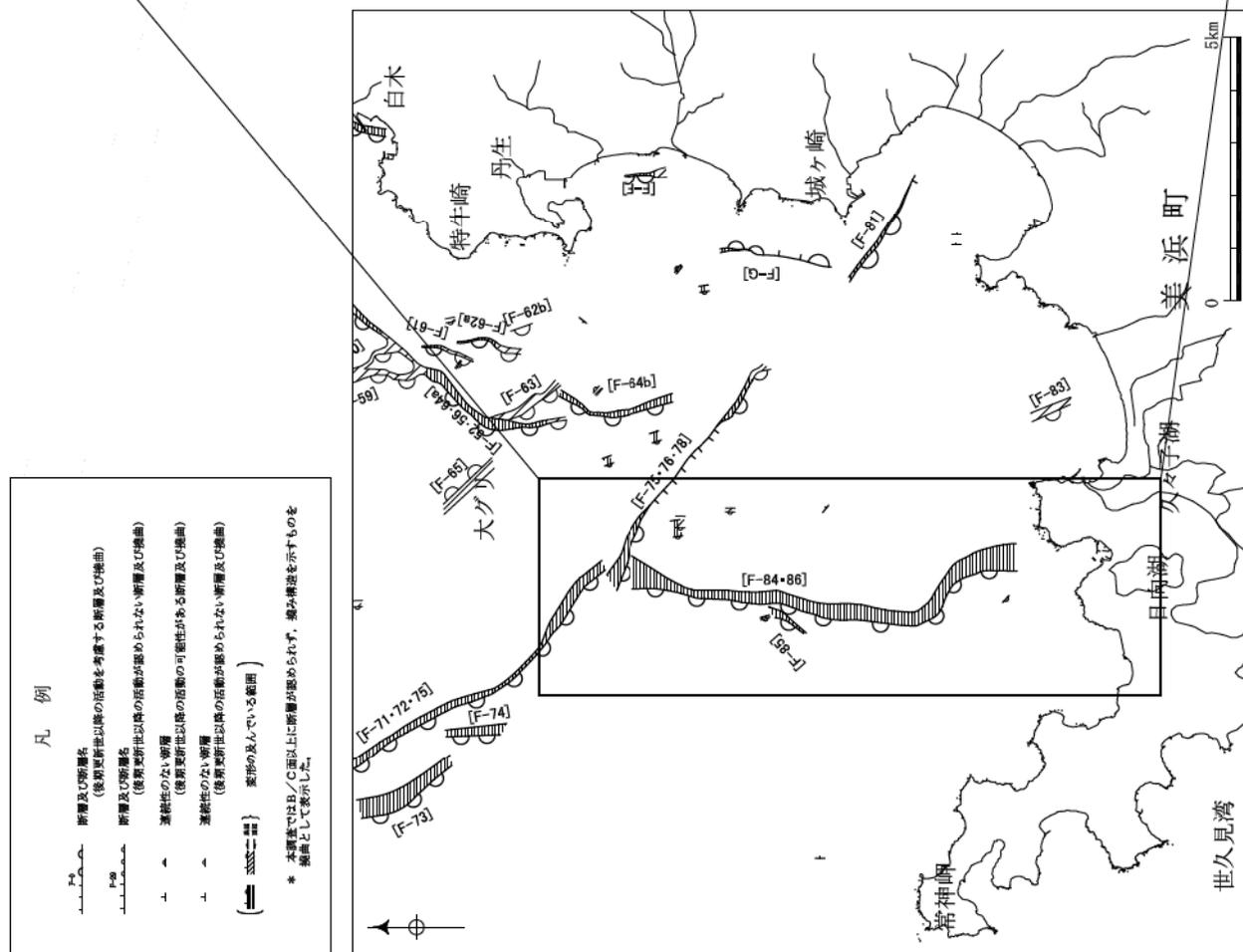
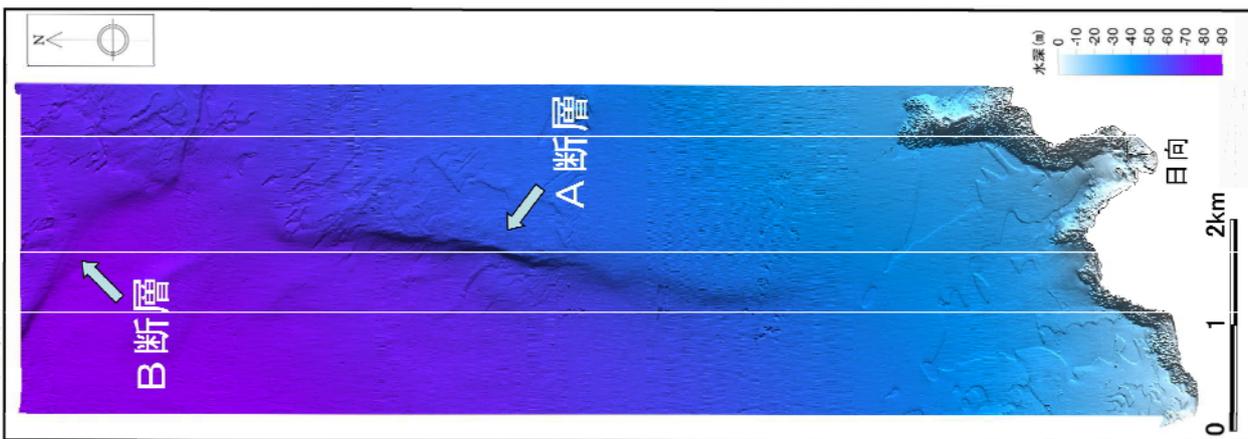
- 凡例
- Bランクのリニアメント
 - Cランクのリニアメント
 - Dランクのリニアメント
 - 屈曲した谷線

- 凡例
- 砂岩
 - 泥岩
 - チャート
 - 緑色岩
 - 層理面の走向・傾斜
 - 劈理面の走向・傾斜
 - 断層面の走向・傾斜
 - 断層
 - Bランクのリニアメント
 - Cランクのリニアメント
 - 屈曲した谷線
 - 活断層（編年Ⅱ）
（近畿の活断層）
- 丹波帯
中・古生層



第3.2.93図 三方断層 新道付近の詳細ルートマップ (Loc. Mt-1)

高さ強調:15倍
光源:真東, 仰角40°



凡例

- 断層及び断層名
(後期更新世以降の活動を考慮する断層及び断層)
- 断層及び断層名
(後期更新世以降の活動が認められない断層及び断層)
- 連続性のない断層
(後期更新世以降の活動の可能性のある断層及び断層)
- 連続性のない断層
(後期更新世以降の活動が認められない断層及び断層)
- (---) 変形の及んでいない範囲

* 本調査ではB/C区以上に断層が認められず、場み構造を示すものを線画として表示した。

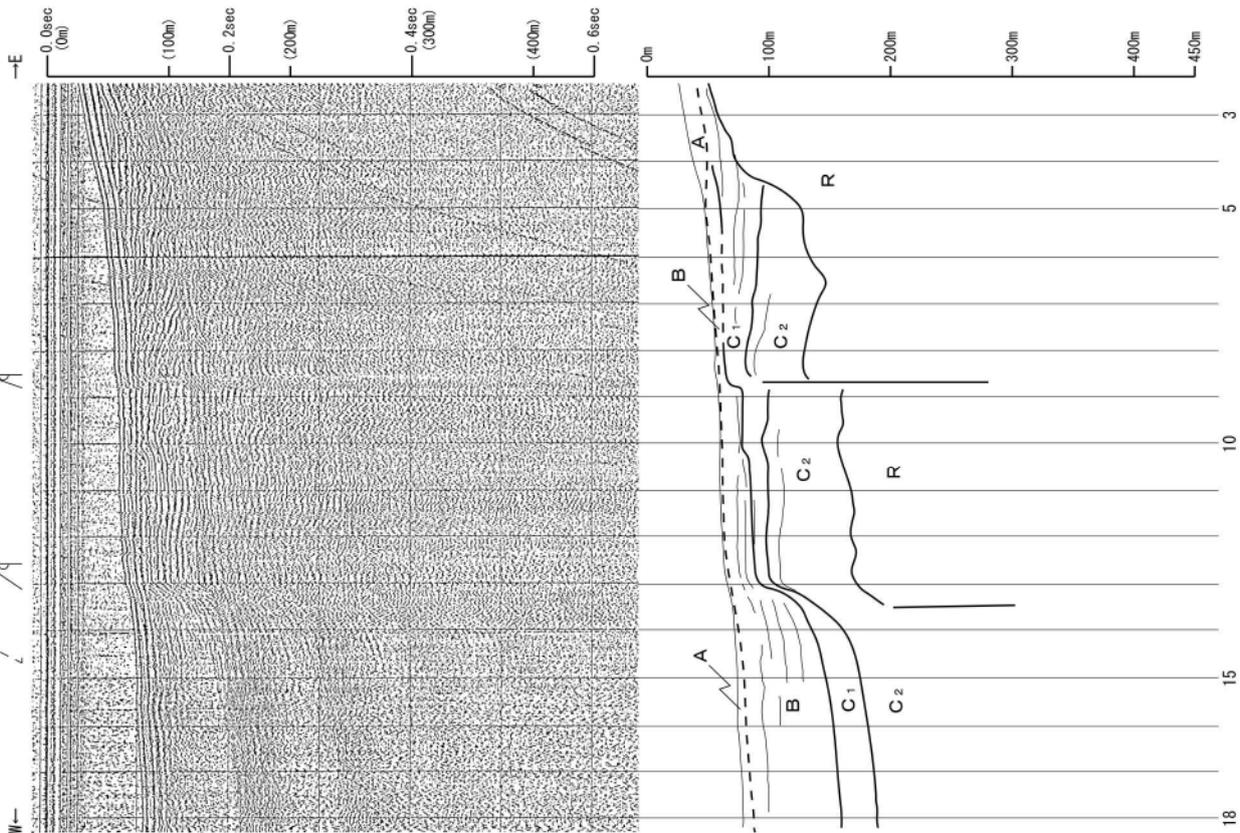
第3.2.94図 三方断層 (海域) 周辺の海底地形調査結果

No. 40-2

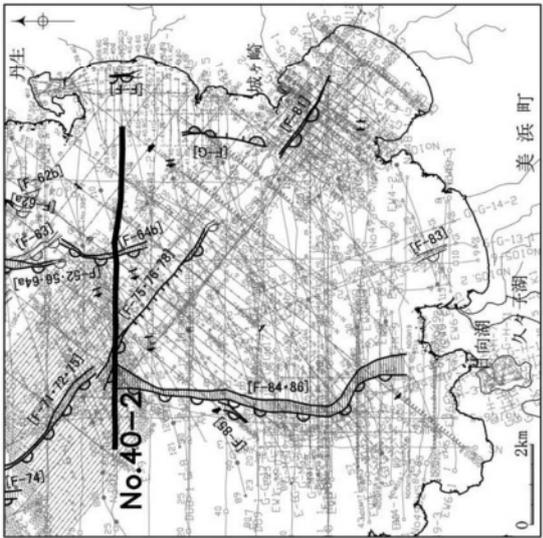
海保(1980)
スバーカー

[F-84・86]延長部 [F-75・76・78]

[F-64b]



数字(角度)は水平・垂直比が1:1の傾斜角度
深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。



音波探査記録は、海上保安庁水路部(現海上保安庁海洋情報部)の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

凡例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 断層及び断層番号

頂部

基部

[F-2]延長部

断層又は断層の延長位置

断層又は断層の延長位置

断層又は断層の延長位置

断層又は断層の延長位置

凡例

A層 完新統

B層 上部更新統

C層 最上部鮮新統~中部更新統

D層 下部~上部鮮新統

R層 先鮮新統~最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

V.E. = 14

0.43°

1.09°

2.22°

3.53°

4.93°

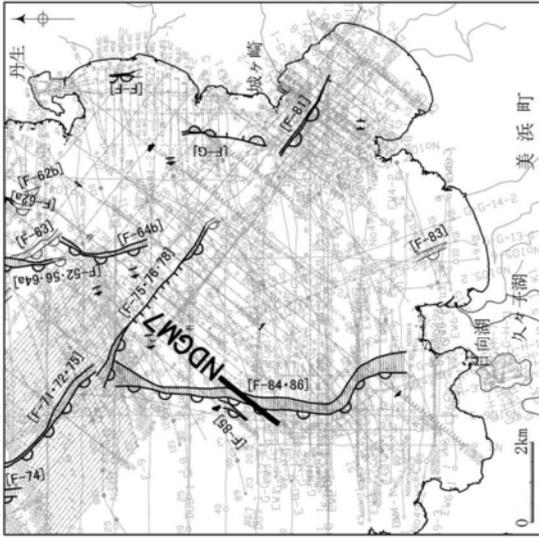
7.03°

11.06°

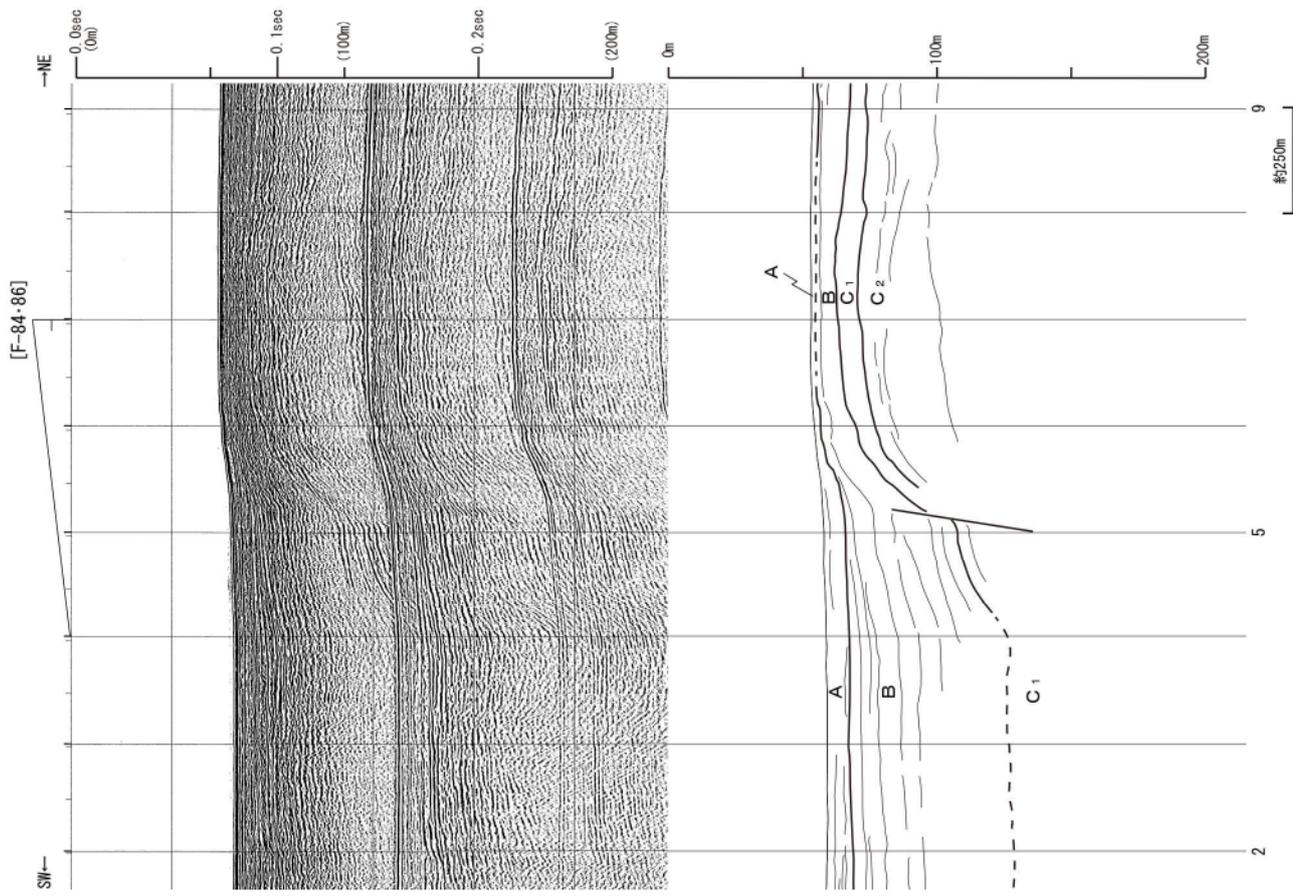
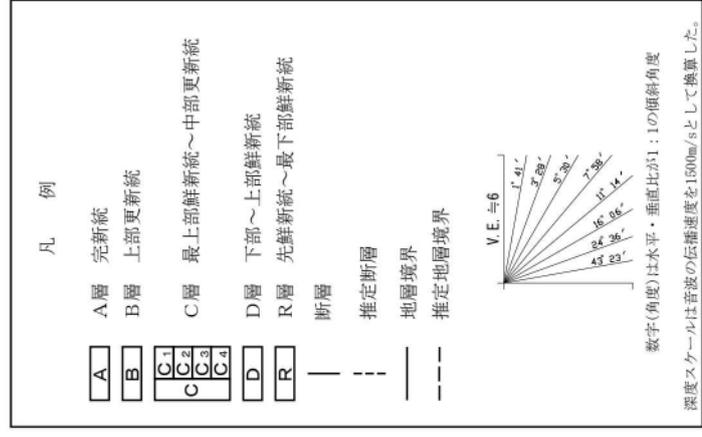
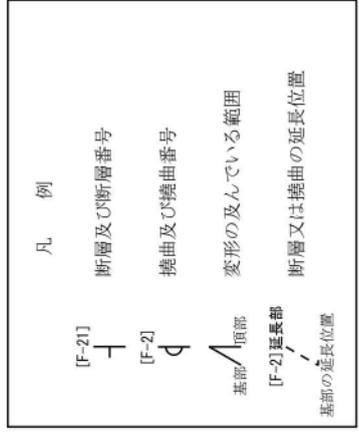
22.03°

数字(角度)は水平・垂直比が1:1の傾斜角度
深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第3.2.95図(1) 三方断層(海域)の海上音波探査記録及び地質断面図(No. 40-2)

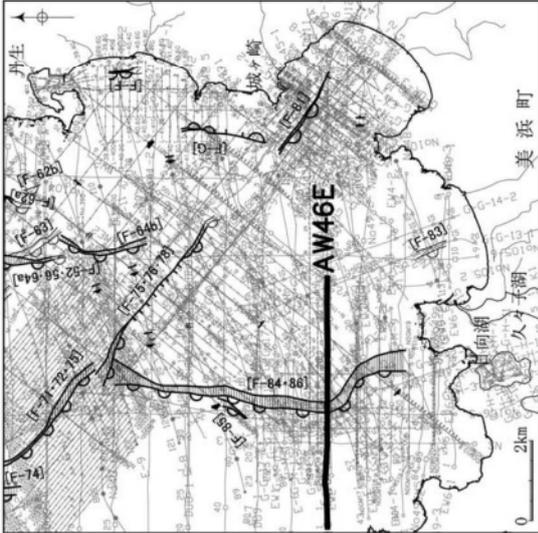
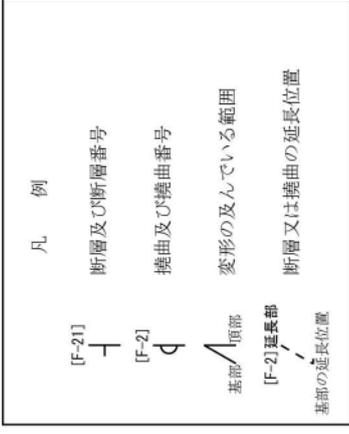
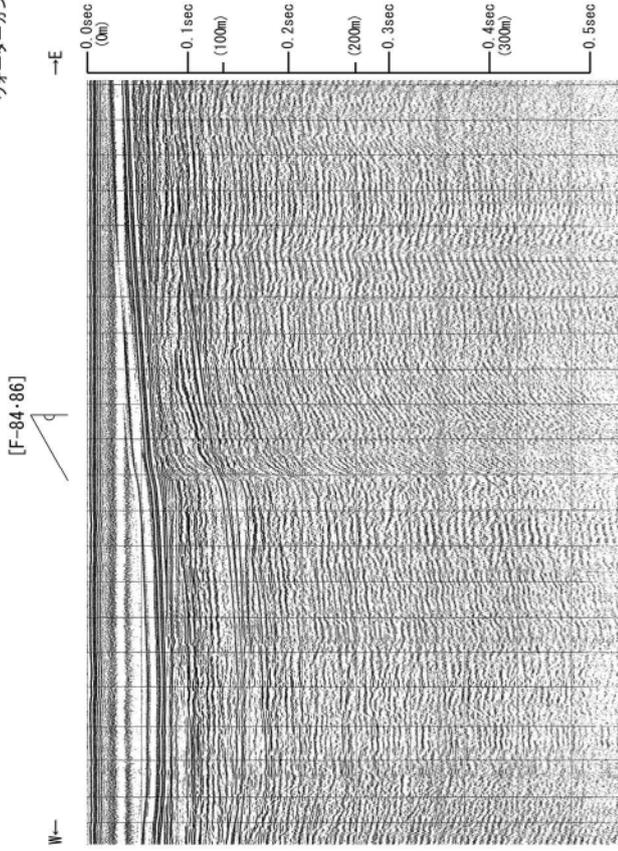


日本原子力発電株式会社による音波探査記録

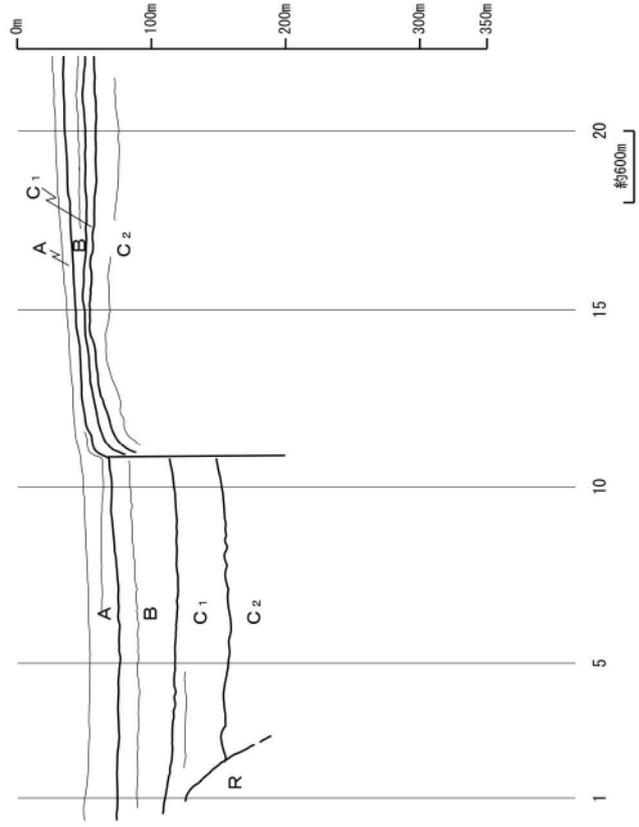
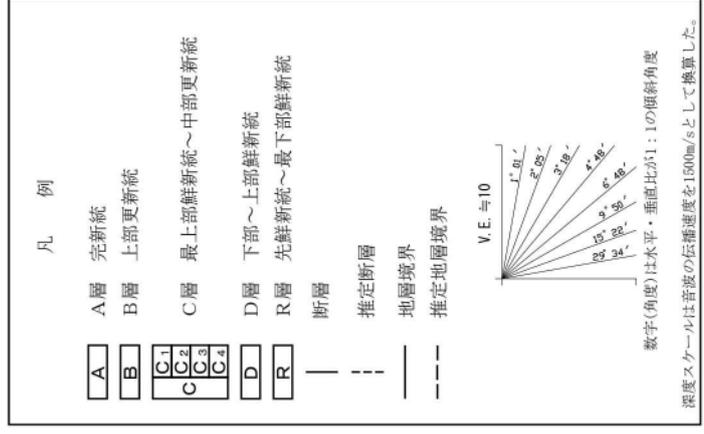


第3.2.95図(2) 三方断層(海域)の海上音波探査記録及び地質断面図(NDGM7) 6-3-353

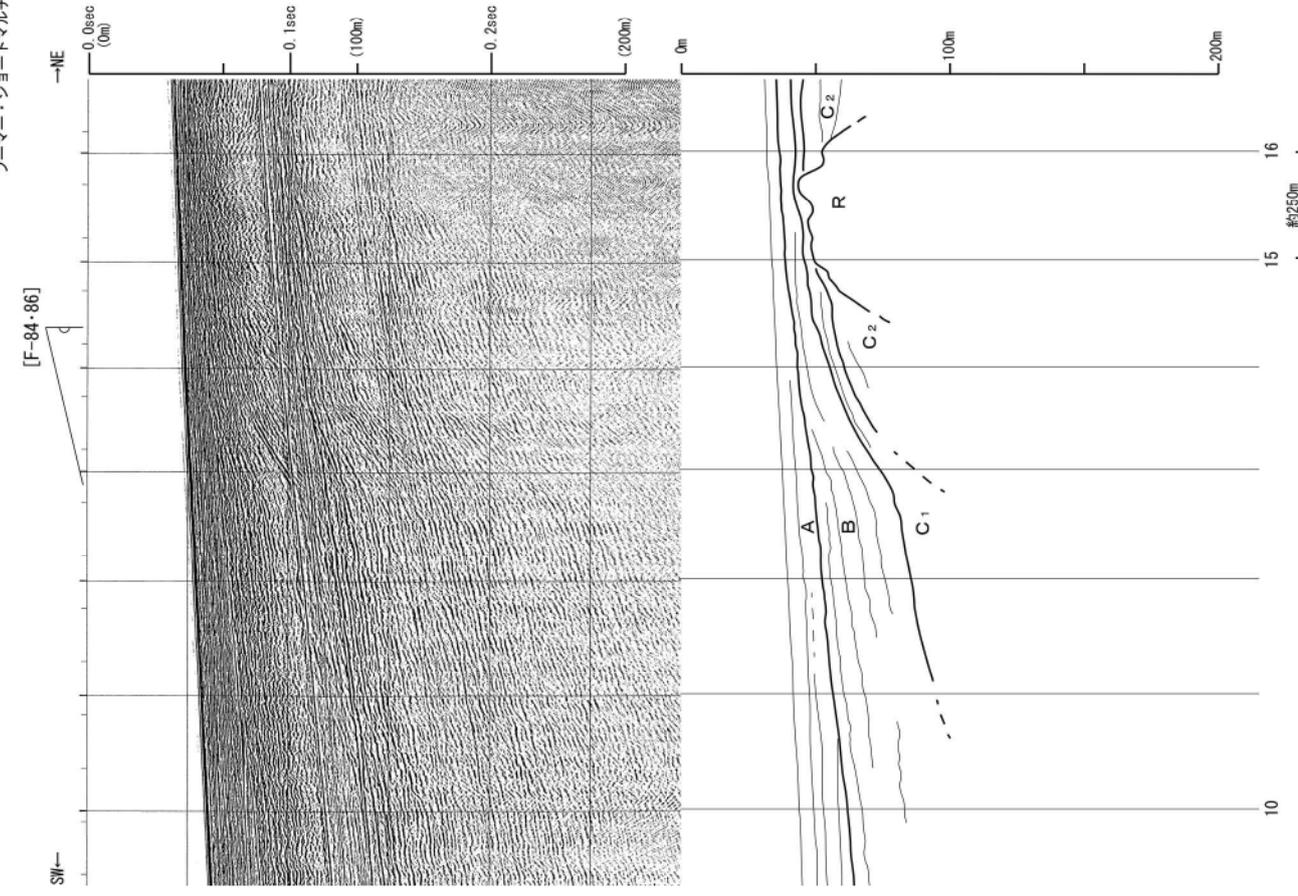
AW46E
日本原電1998
ウォーターガン



日本原子力発電株式会社による音波探査記録



第3.2.95図(3) 三方断層(海域)の海上音波探査記録及び地質断面図(AW46E) 6-3-354



凡 例

断層及び断層番号
[F-21]

撓曲及び撓曲番号
[F-2]

変形の及んでいる範囲
頂部
基部

断層又は撓曲の延長位置
[F-2]延長部
基部の延長位置

凡 例

A層 完新統

B層 上部更新統

C層 最上部鮮新統~中部更新統

D層 下部~上部鮮新統

R層 先鮮新統~最下部鮮新統

断層

推定断層

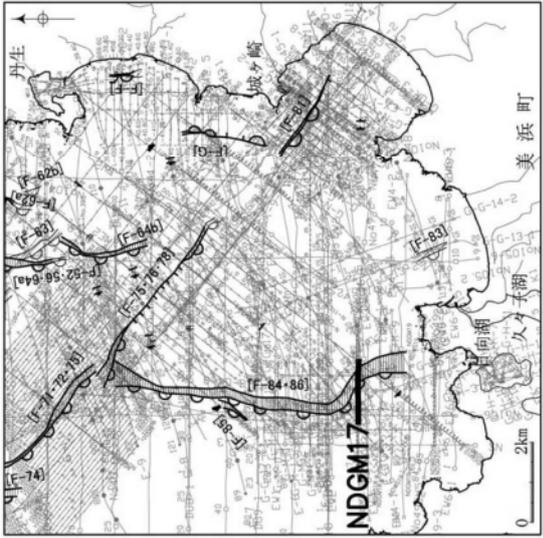
地層境界

推定地層境界

V.E. = 6

1°41'
2°29'
3°30'
4°30'
5°30'
6°30'
7°30'
8°30'
9°30'
10°30'

数字(角度)は水平・垂直比が1:1の傾斜角度
深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

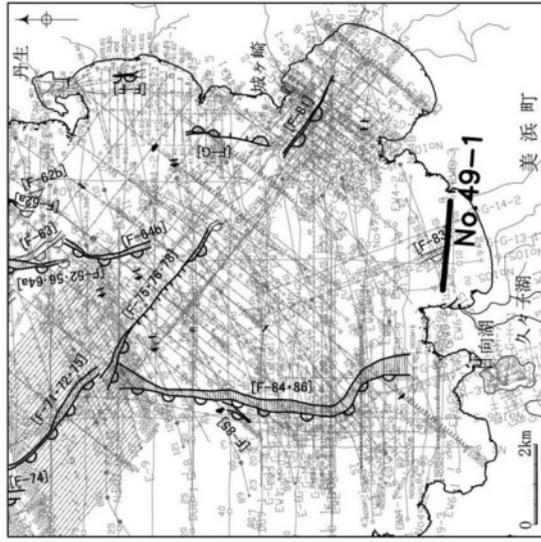


日本原子力発電株式会社による音波探査記録

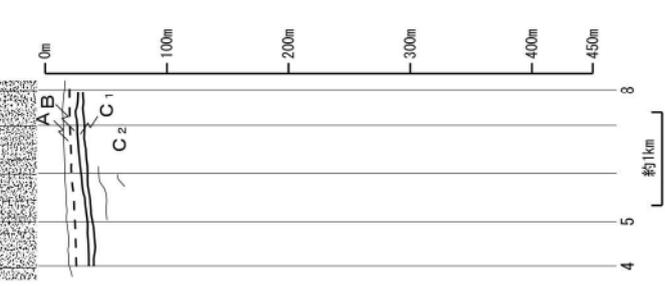
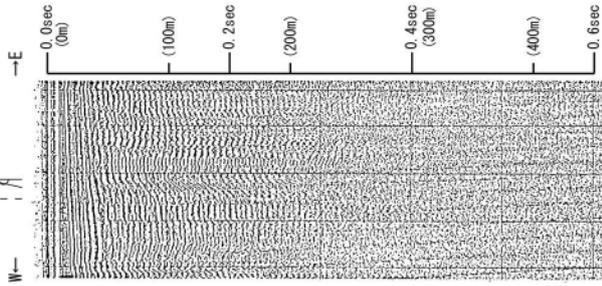
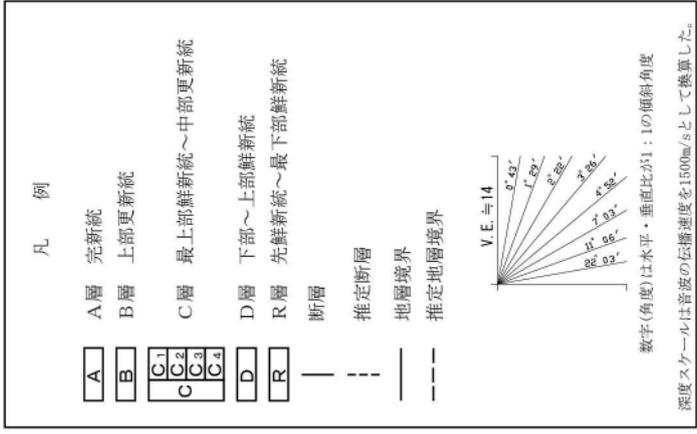
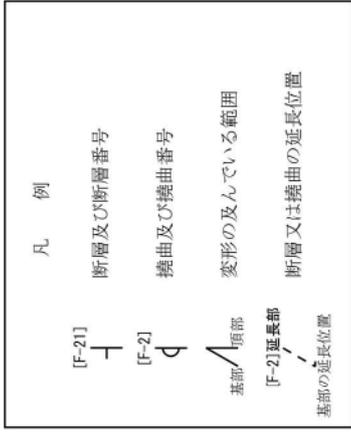
No. 49-1

海保(1980)
スハーカー

三方セグメント
(陸域)延長部 [F-81]



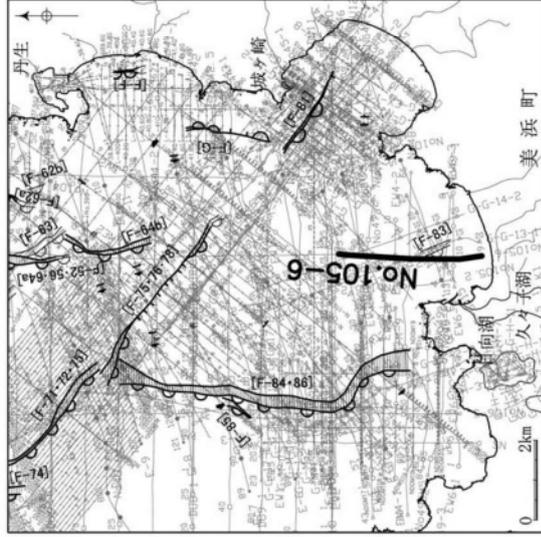
音波探査記録は、海上保安庁水路部(現海上保安庁海洋情報部)の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。地質断面図は、申請者の解釈によるものである。



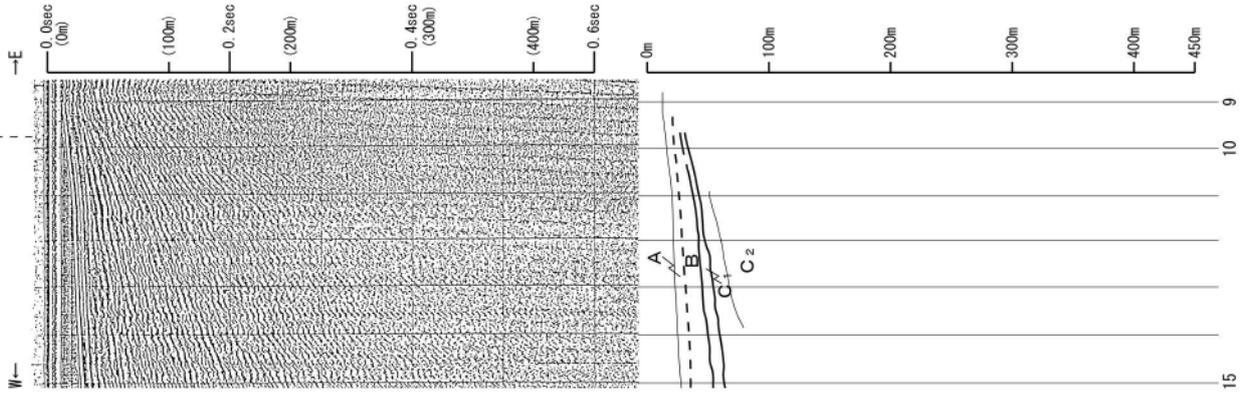
第3.2.95図(5) 三方断層(海域)の海上音波探査記録及び地質断面図 (No. 49-1) 6-3-356

No. 105-6
海保(1980)
スバーカー

三方セグメント
(陸域)延長部



音波探査記録は、海上保安庁水路部(現海上保安庁海洋情報部)の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。地質断面図は、申請者の解釈によるものである。



凡 例

[F-21] 断層及び断層番号
[F-2] 撓曲及び撓曲番号
頂部
基部
[F-2]延長部
断層又は撓曲の延長位置
基部の延長位置

断層及び断層番号
撓曲及び撓曲番号
変形の及んでいる範囲
断層又は撓曲の延長位置

凡 例

A層 完新統
B層 上部更新統
C層 最上部鮮新統～中部更新統
D層 下部～上部鮮新統
R層 先鮮新統～最下部鮮新統
断層
推定断層
地層境界
推定地層境界

数字(角度)は水平・垂直比が1:1の傾斜角度
深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

V.E. = 14
9°49'
1°29'
2°28'
2°58'
7°53'
1°06'
22°02'

第3.2.95図(6) 三方断層 (海域) の海上音波探査記録及び地質断面図 (No. 105-6)

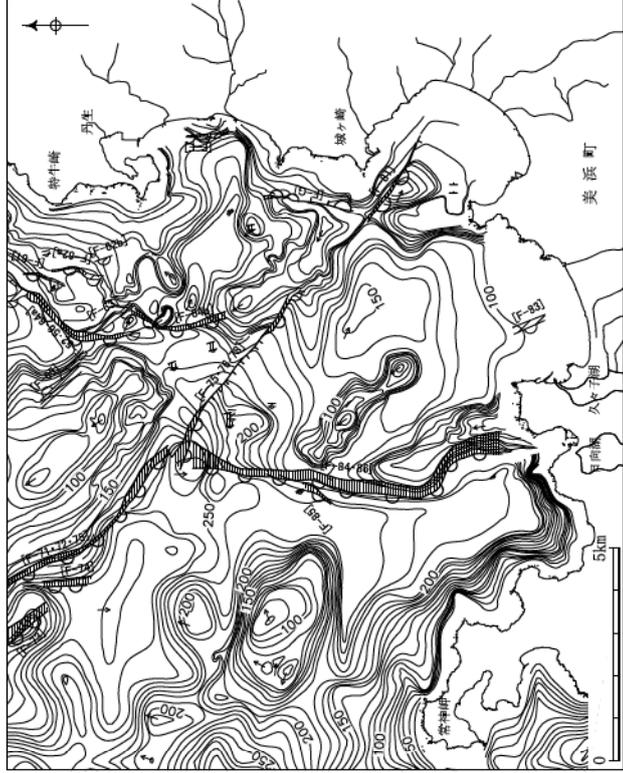
凡 例	
-200-	等深線 (m)
	凸部
	凹部
	断層及び断層名 (後期更新世以降の活動を考慮する断層及び拗曲)
	断層及び断層名 (後期更新世以降の活動が認められない断層及び拗曲)
	連続性のない断層 (後期更新世以降の活動の可能性のある断層及び拗曲)
	連続性のない断層 (後期更新世以降の活動が認められない断層及び拗曲)
	() 変形の及んでいる範囲

* 本調査ではB/C面に断層が認められず、拗み構造を示すものを拗曲として表示した。

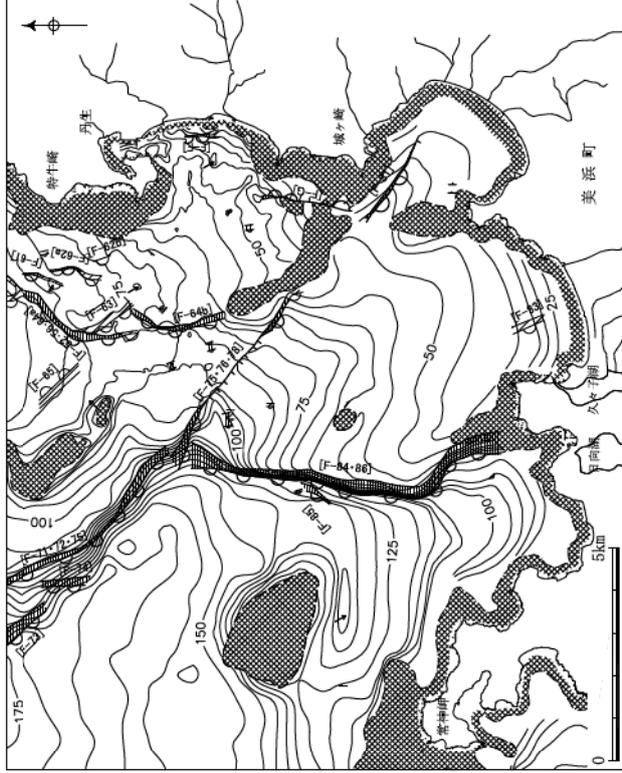
凡 例	
-100-	等深線 (m)
	凸部
	凹部
	断層及び断層名 (後期更新世以降の活動を考慮する断層及び拗曲)
	断層及び断層名 (後期更新世以降の活動が認められない断層及び拗曲)
	連続性のない断層 (後期更新世以降の活動の可能性のある断層及び拗曲)
	連続性のない断層 (後期更新世以降の活動が認められない断層及び拗曲)
	() 変形の及んでいる範囲

* 本調査ではB/C面に断層が認められず、拗み構造を示すものを拗曲として表示した。

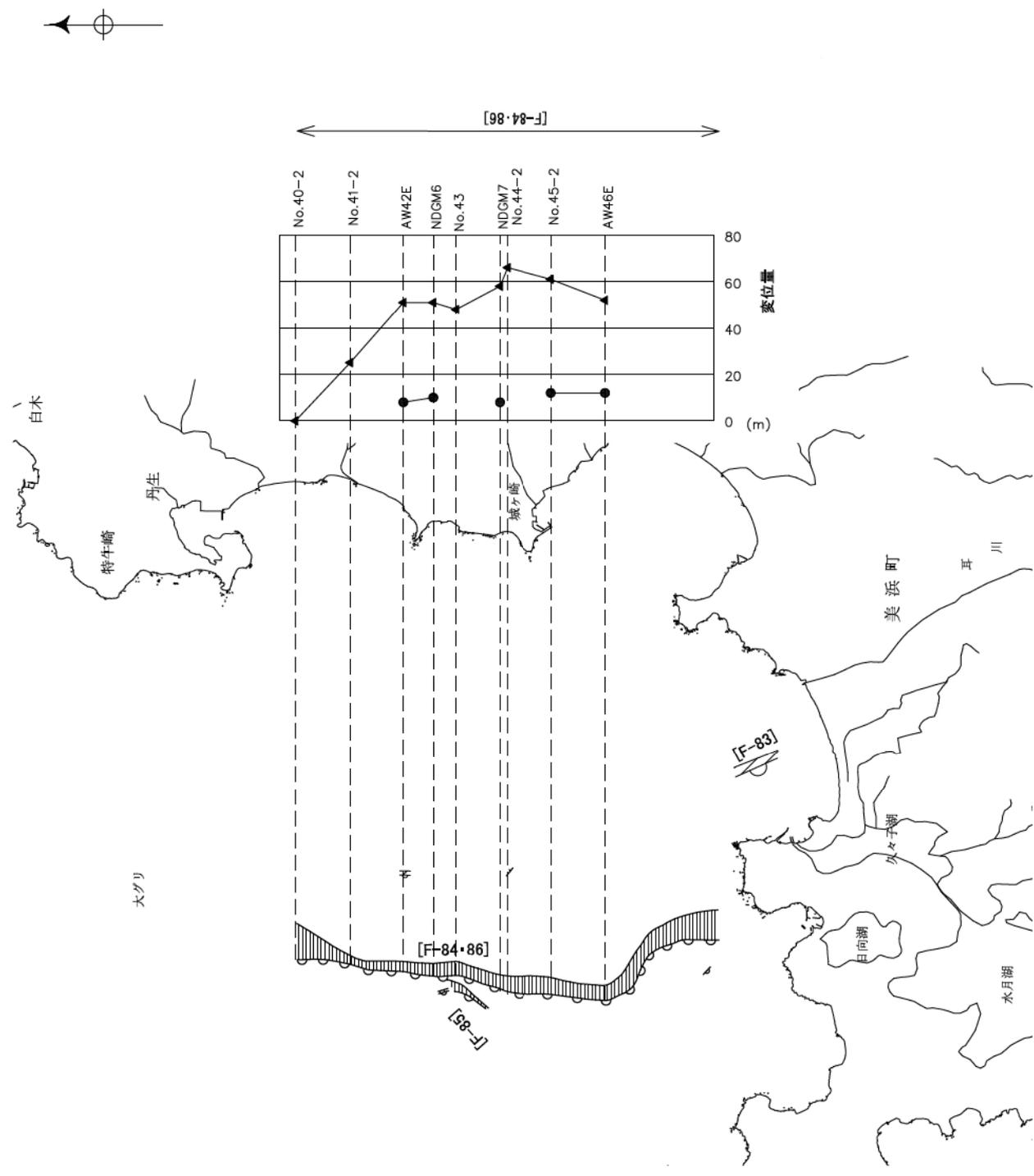
C層が分布しない範囲



第3.2.96図 三方断層 (海域) 周辺の等深線図 (R層上面)



第3.2.97図 三方断層 (海域) 周辺の等深線図 (C層上面)



第3.2.98図 三方断層 (海城) の変位量分布図

凡 例

- B層上面
- ▲ C層上面
- R層上面

断層及び断層名
 (後期更新世以降の活動を考慮する断層及び褶曲)

断層及び断層名
 (後期更新世以降の活動が認められない断層及び褶曲)

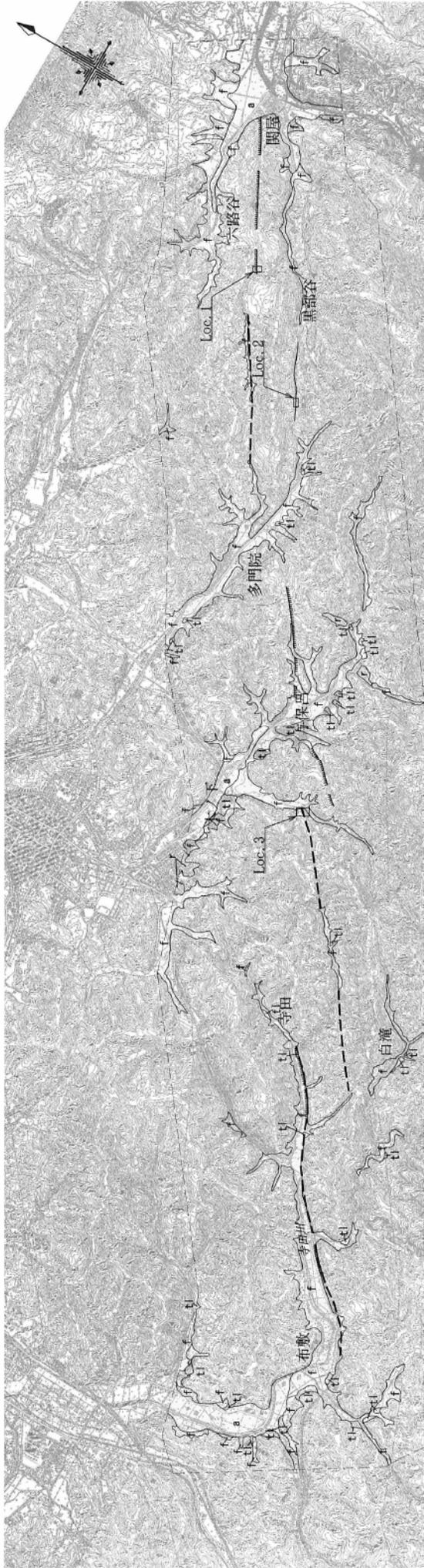
連続性のない断層
 (後期更新世以降の活動の可能性のある断層及び褶曲)

連続性のない断層
 (後期更新世以降の活動が認められない断層及び褶曲)

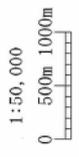
変形の及んでいる範囲

* 本調査ではB/C面以上に断層が認められず、読み構造を示すものを
 描画として表示した。
 * 変位量は地層調査探査記録で計測可能な測線のみを表示した。





「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情報、第259号)」

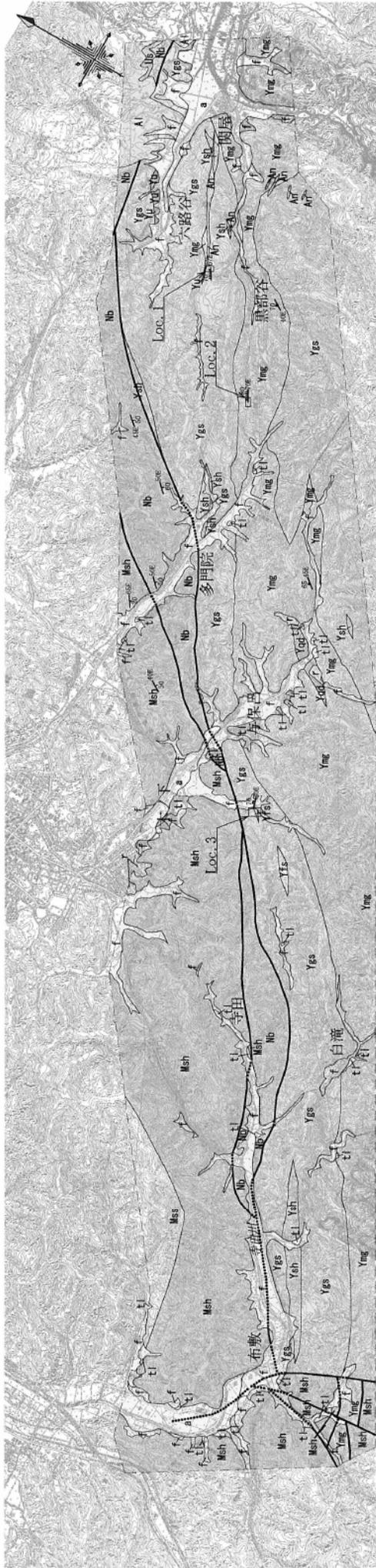


変動地形・リニアメントの凡例

— Dランク
 短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
 --- 主なリニアメント
 岡田・東郷編(2000)^{*)}に記載されている断面組織地形を転記したもの
 Loc 詳細調査位置 (レポートマップ、スケッチ等)
 [] 表示範囲

地形面の凡例

[tl] 低位段丘面
 [f] 新期扇状地面
 [a] 沖積面
 [r] 人工改変地



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の22万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情復、第259号)」

凡例

- 断層
- 伏在断層
- ↗ 層理面の走向傾斜(偏角未補正)
- ↘ 面構造(へき開面など)の走向傾斜(偏角未補正)
- ↗ 断層面の走向傾斜(偏角未補正)
- ↘ 割れ目の走向傾斜(偏角未補正)
- Loc 詳細調査位置(ルートマップ、スケッチ等)
- [] 表示範囲

凡例

r	人工改変地
a	礫、砂及び泥
f	礫、砂及び泥
tl	礫、砂及び泥
Al	凝灰角礫岩
An	安山岩
Us	凝岩・砂岩
Nb	砂岩及び頁岩
Mes	砂岩
Msh	頁岩
Yeh	頁岩
Ygs	緑色岩類
Yfs	珪長岩
Yqd	石英閃緑岩
Yng	変斑れい岩
YU	超苦鉄質岩

第四紀

- 完新世
 - 人工改変地
 - 沖積層
 - 新期扇状地堆積物
- 更新世 - 低位段丘堆積物
 - 青葉山安山岩類 下部
 - 岩脈

新第三紀

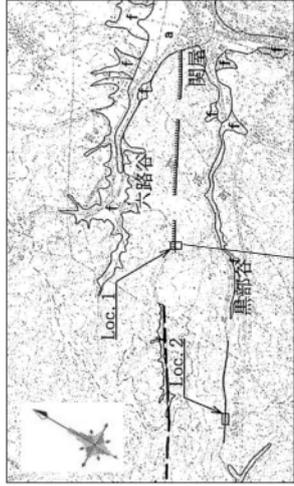
- 中新世
 - 凝岩・砂岩
 - 砂岩部層
 - 内海層群
 - 藍及砂岩部層
 - 難波江層群
- 三疊紀後期
 - 舞鶴層群

舞鶴帯

- 夜久野
- オファイオライト

ペルム紀

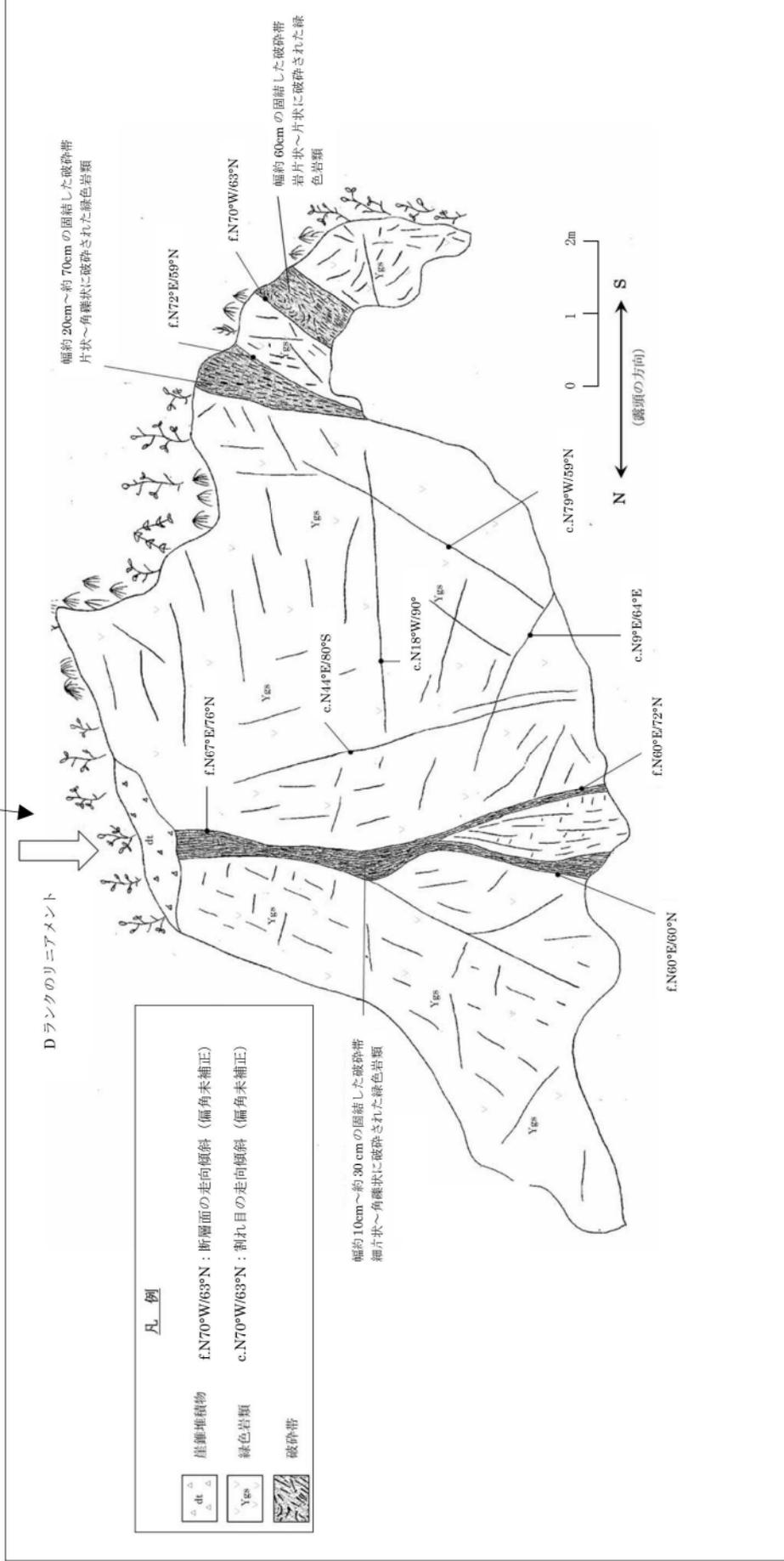
第3.2.100図 多門院リニアメント周辺の地質図



露頭位置図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情復、第259号)」

リニアメント直交方向に長さ約15mの緑色岩類の連続露頭を確認した。
 リニアメント判読位置にリニアメント(N60°E)方向と調和的な方向を示す断層(N60°~67°E/60°~76°N)が認められ、破碎帯は固結している。他の2条の断層はE-W方向(N72°E/59°N、N70°W/63°N)を示し、いずれの破碎帯も固結している。



Dランクのリニアメント

凡例

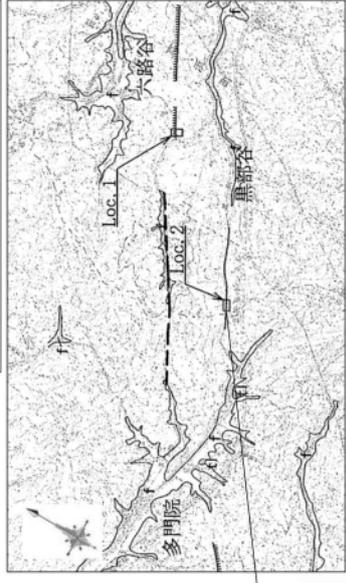
植物地植物 dt
 緑色岩類 Yes
 破碎帯 (hatched pattern)

f.N70°W/63°N : 断層面の走向傾斜 (偏角未補正)
 c.N70°W/63°N : 割れ目の走向傾斜 (偏角未補正)

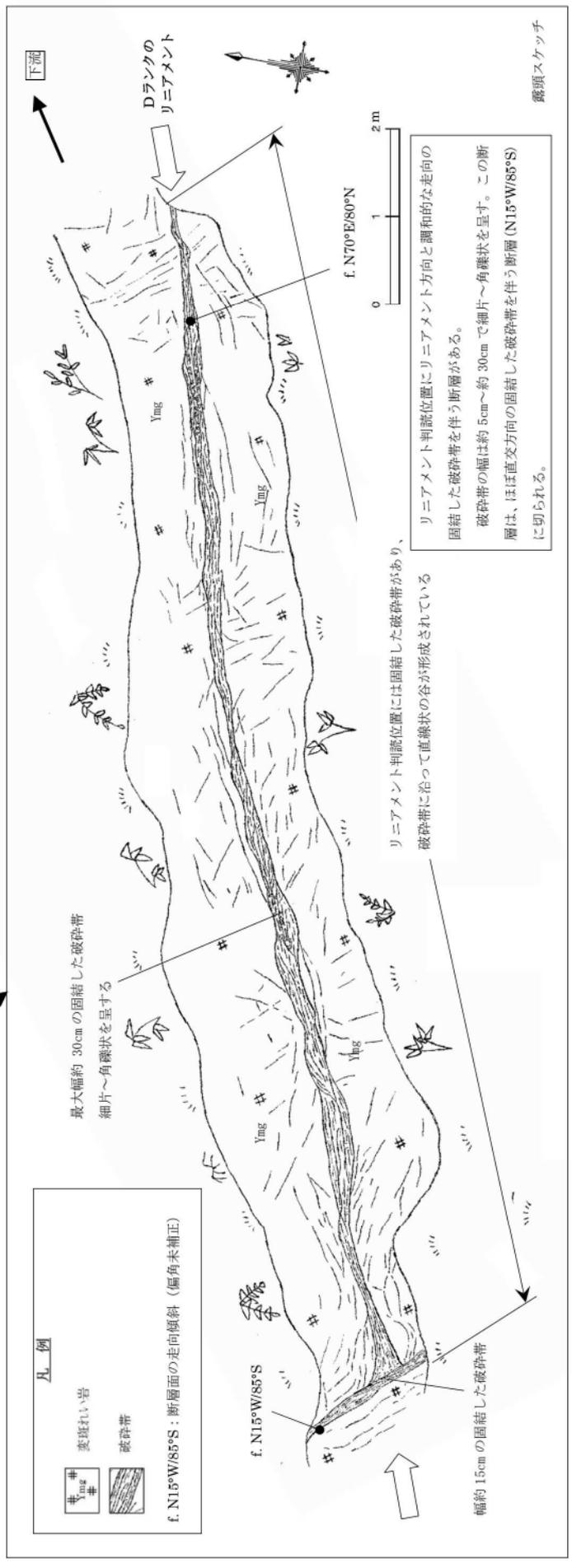
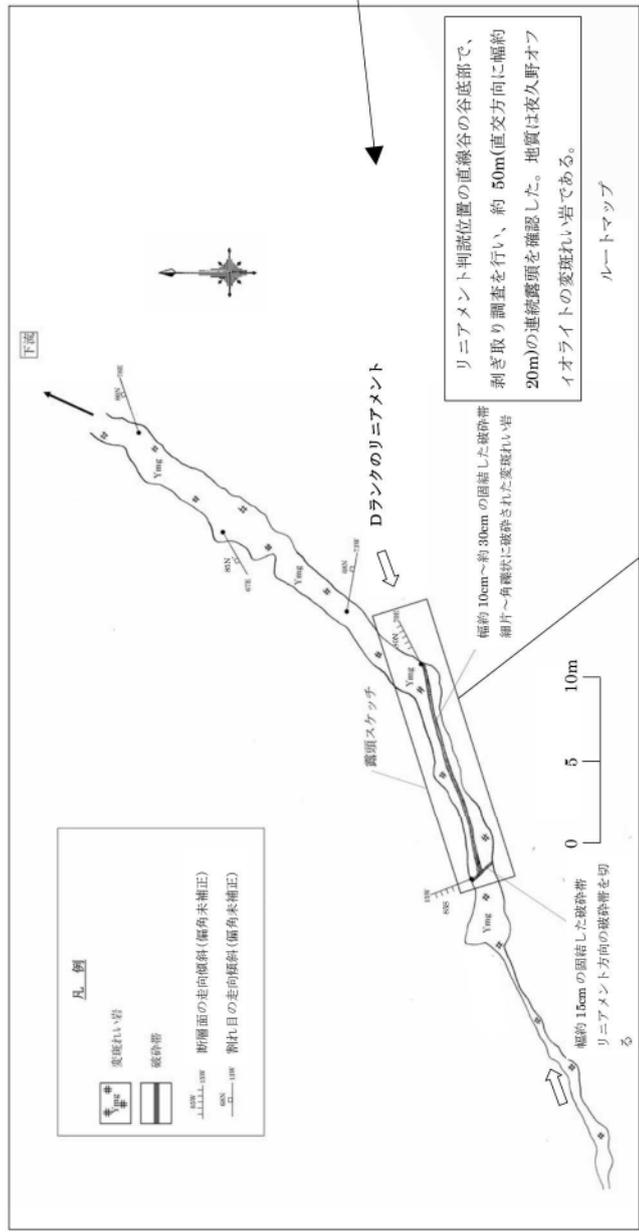
幅約10cm~約30cmの固結した破碎帯 細片状~角礫状に破碎された緑色岩類

第3.2.101図 多門院リニアメント 露頭スケッチ(Loc.1)

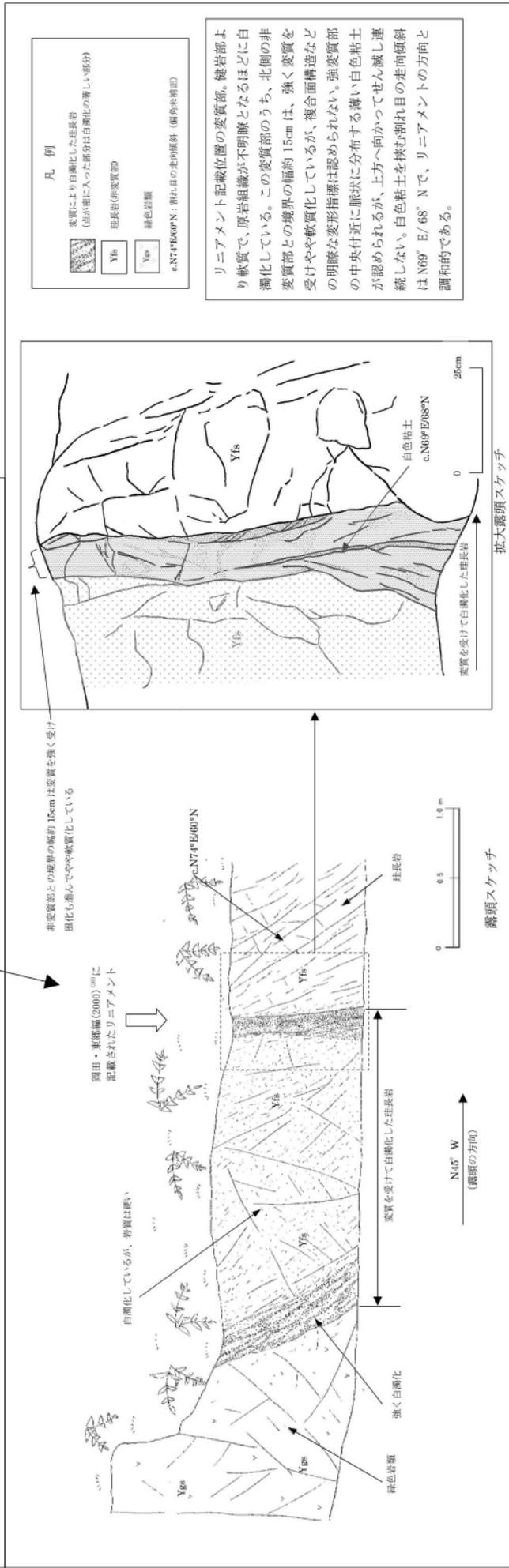
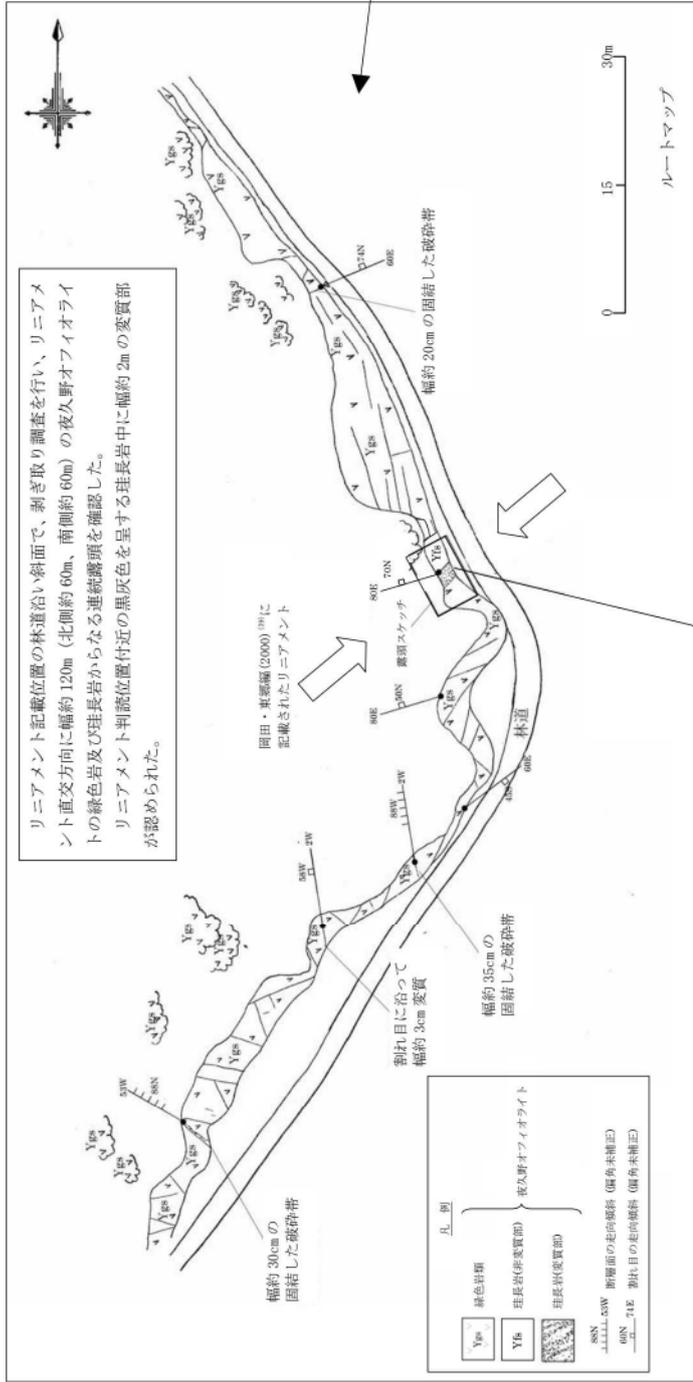
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情発、第259号)」

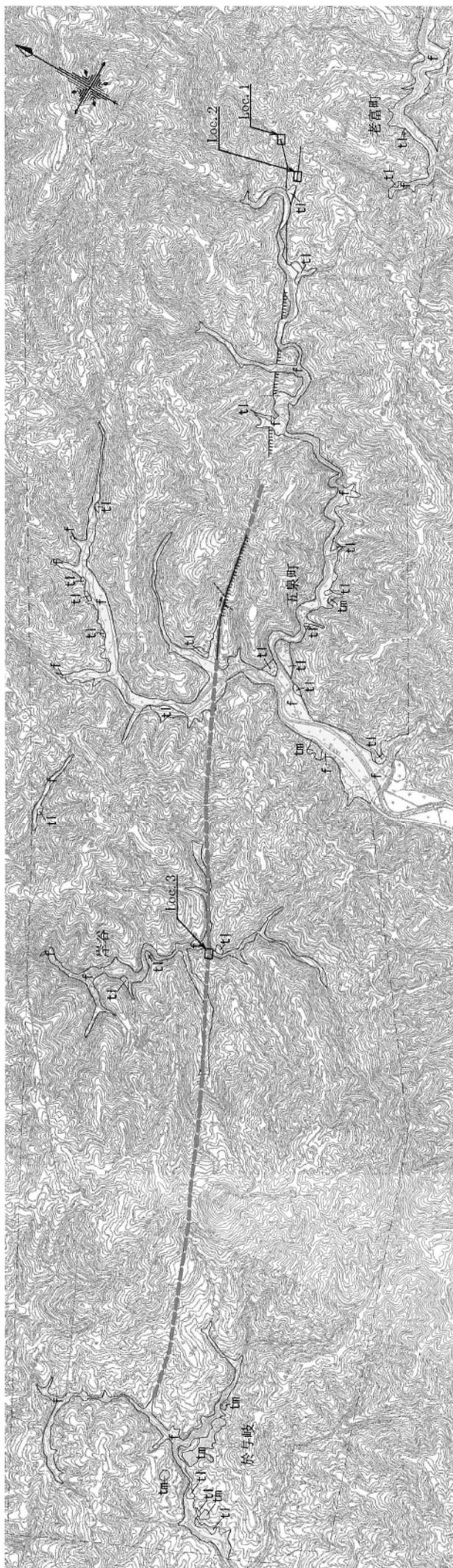


露頭位置図



第3.2.102図 多門院リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ (Loc. 2)





1:30,000



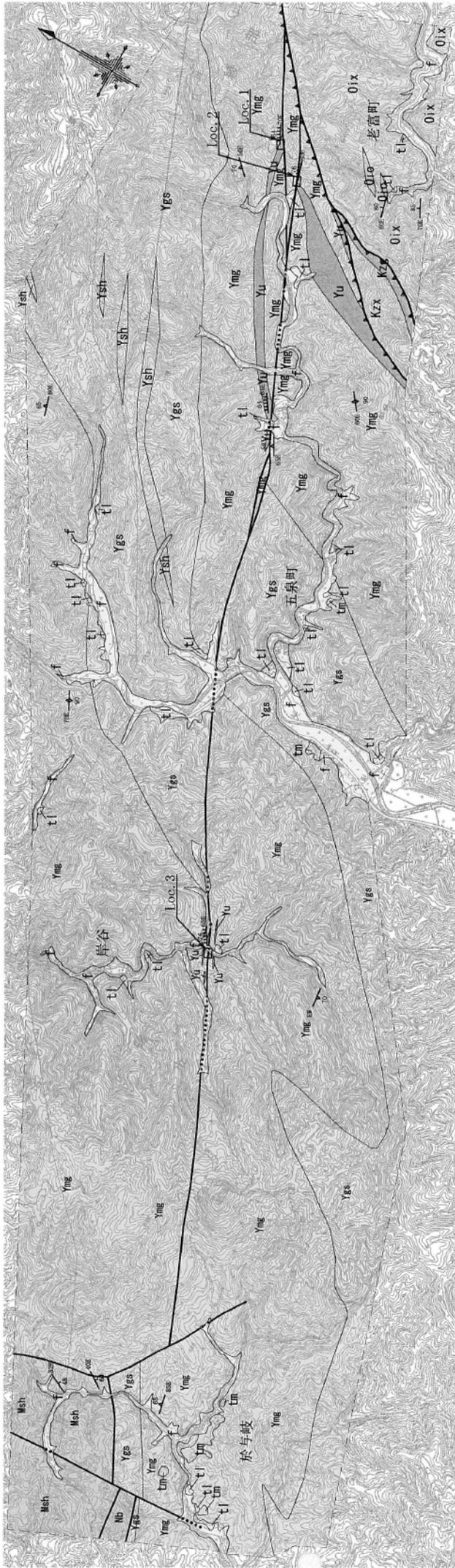
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院
 発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
 (承認番号 平27情保、第259号)」

変動地形・リニアメントの凡例

- Dラング
短線は低い側を示す。矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。
短線がないリニアメントは河側で高度の不連続が認めら
れないもの。
- 主なリニアメント
岡田・東郷編(2000)²⁾に記載されている断
層組織地形を転記したもの
- ↷ 谷の屈曲
- Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
- 表示範囲

地形面の凡例

- ▣ 中位段丘面
- ▤ 低位段丘面
- ▥ 新期扇状地面



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平27情報、第259号)

1:30,000
0 500m 1000m

凡例

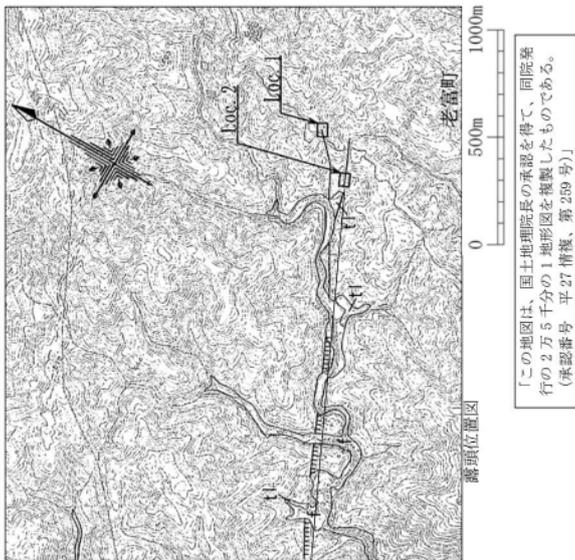
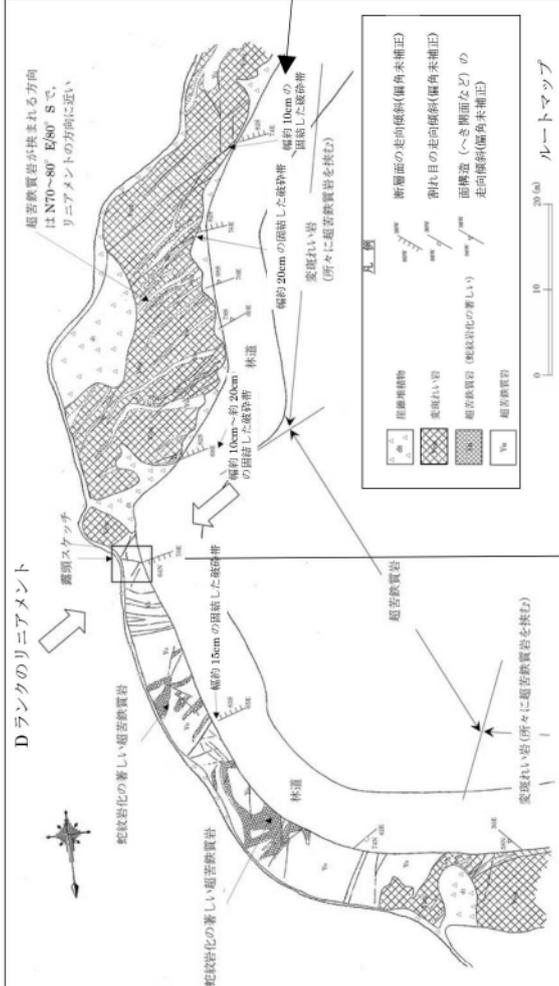
- 断層
- 伏在断層
- ▲ 地質体・コンプレックスの境界
- ▲ 面構造 (へき断面など) の走向傾斜 (偏角未補正)
- ▲ 断面面の走向傾斜 (偏角未補正)

Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
[] 表示範囲

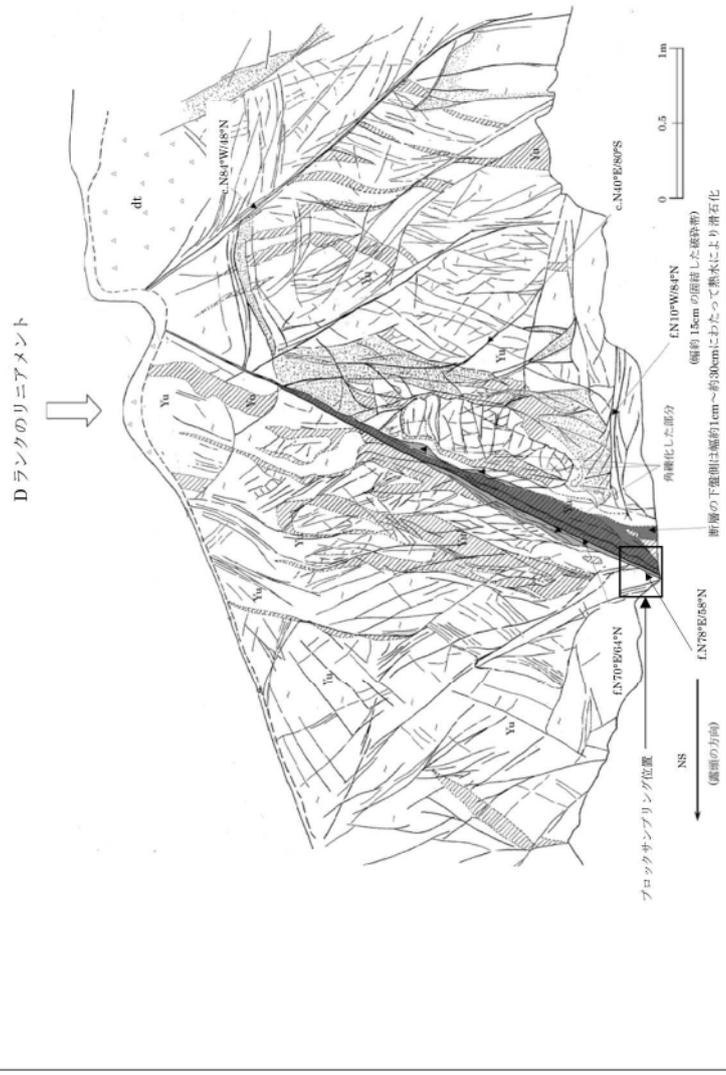
凡例

第四紀	全新世	新期扇状地堆積物	f	礫、砂及び泥
	更新世	低位段丘堆積物	tl	礫、砂及び泥
		中位段丘堆積物	tm	礫、砂及び泥
	ベルム紀中～後期	超丹波帯	Kzx	泥質泥岩及び頁岩(砂岩、チャートを伴う)
		大飯層	Oix	頁岩(砂岩・チャートを伴う)
	三疊紀後期	舞鶴層群	Oic	チャート
		舞鶴層群	Nb	砂岩及び頁岩
	ベルム紀	夜久野	Msh	頁岩
		オフイオライト	Ysh	頁岩
			Ygs	緑色岩類
			Yng	変斑れい岩
			Yu	超吉笠頁岩

リニアメントを横断する長さ約 80m の連続露頭。地質はリニアメント判読位置付近境界に夜久野オファオライトの超苦鉄質岩と変斑れい岩が分布する。
 超苦鉄質岩は蛇紋岩化の進んだ岩石を主とし、リニアメント付近から北側に分布する。
 変斑れい岩は、上記超苦鉄質岩を挟むように北側と南側に分布する。縞状の組織を有する岩石で、所々に超苦鉄質岩の薄い層を層状に挟む。

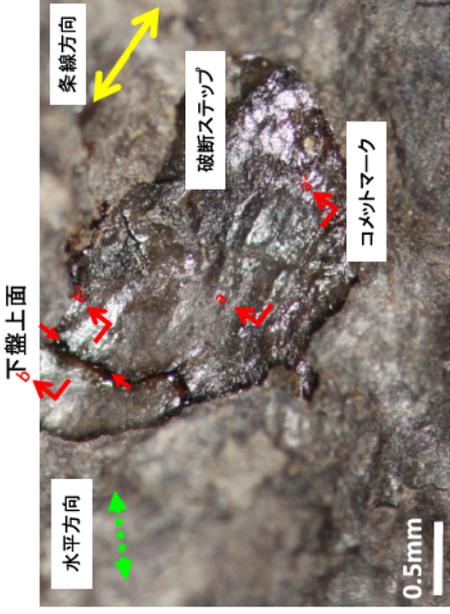
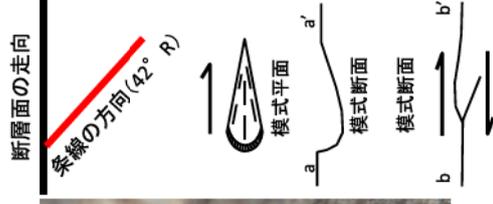


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情復、第259号)」



リニアメント判読位置の断面 (N70°E/64°N) は、リニアメント方向と調和的であり、幅約 1cm〜約 30cm の磁砕帯を有し、熱水変質を受けて滑石化している。滑石化した変質部分は固結している。断面には幅約 3mm 以下の白色粘土が挟まれるが連続しない。この付近の超苦鉄質岩や変斑れい岩中に割れ目や断面が認められるが、いずれもその面は密着し、磁砕帯は固結している。

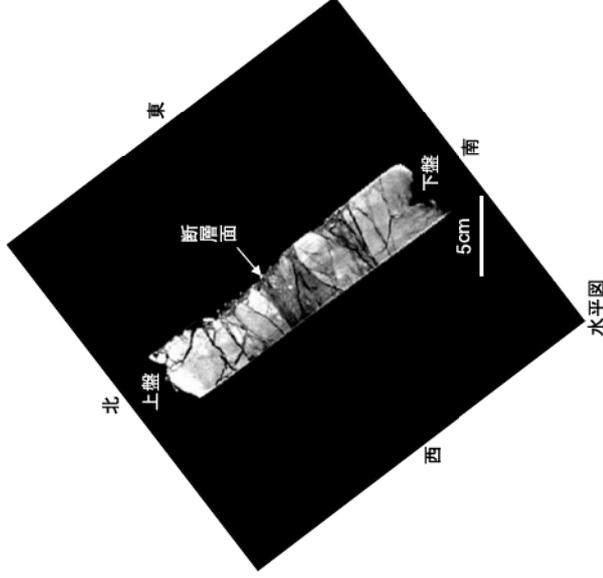
第 3.2.106 図 岸谷リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ (Loc. 1)



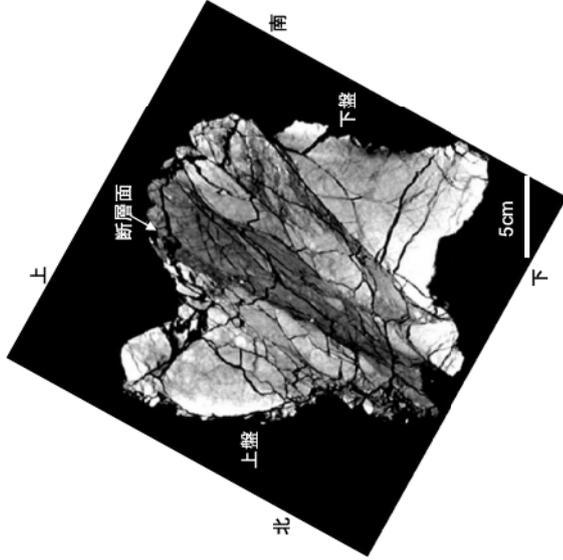
断層面の状況

左横ずれ正断層

・条線観察の結果、条線のレイクは $42^\circ R$ であり、運動センスは左横ずれ正断層である。
 ・これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。



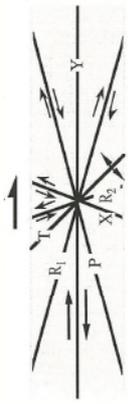
水平面図



正面図

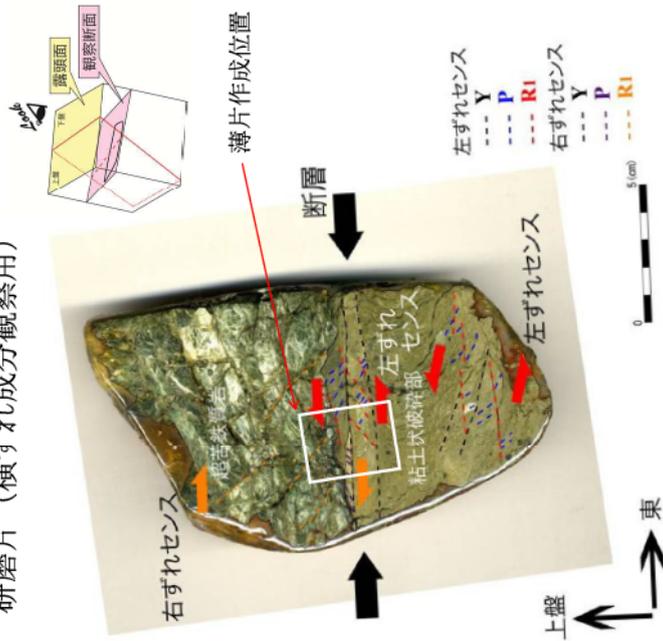
※正面図は研削片の方向に合わせて裏面側から裏面裏側に向けて、
 水平面は上方から下方に向けて撮影。

断層の走向傾斜: N70E/64N
 縦ずれ成分: 正断層、横ずれ成分: 不明
 断層面はブロック中央部に認められる。
 断層面に沿って幅 1cm 程度の低密度部が認められる。



せん断センスを示す複合面構造 (狩野・村田、1998^(L53))

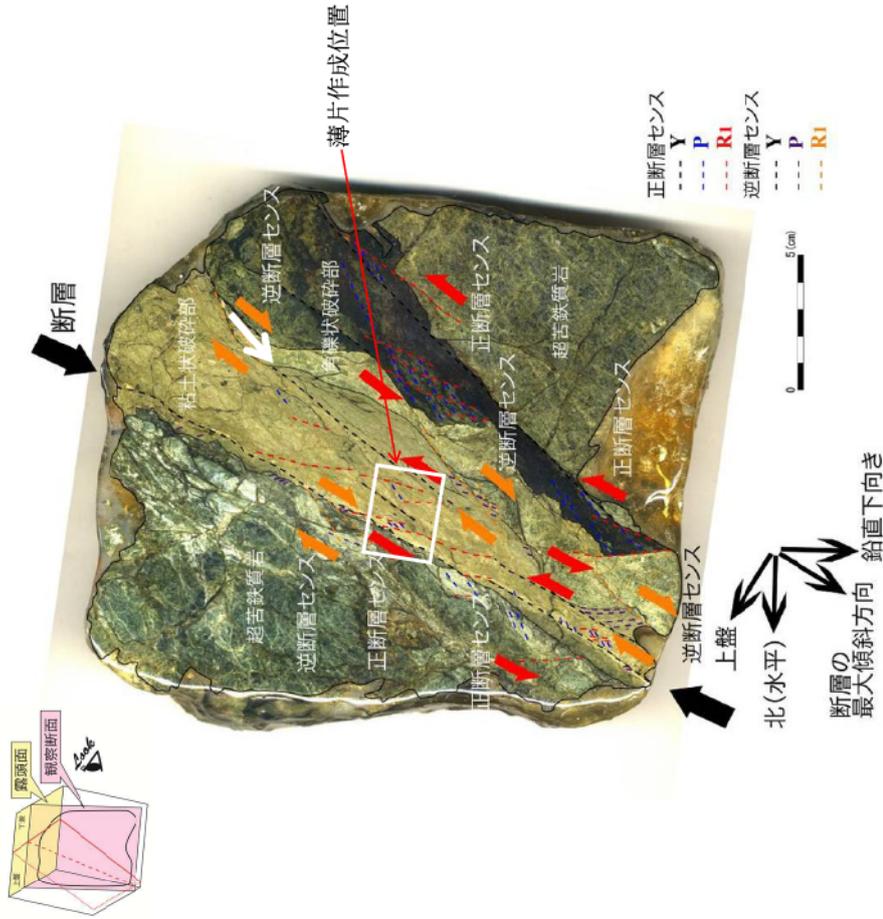
研磨片 (横ずれ成分観察用)



研磨片観察結果 (横ずれ成分)

- ・超苦鉄質岩を原岩とする角礫状破砕部及び粘土状破砕部からなる。
- ・最新活動面 (Y面) 直近では左ずれセンスの変形組織が連続的に認められる。
- ・最新活動面付近及びその外側の領域では右ずれセンスの変形組織が点在している。

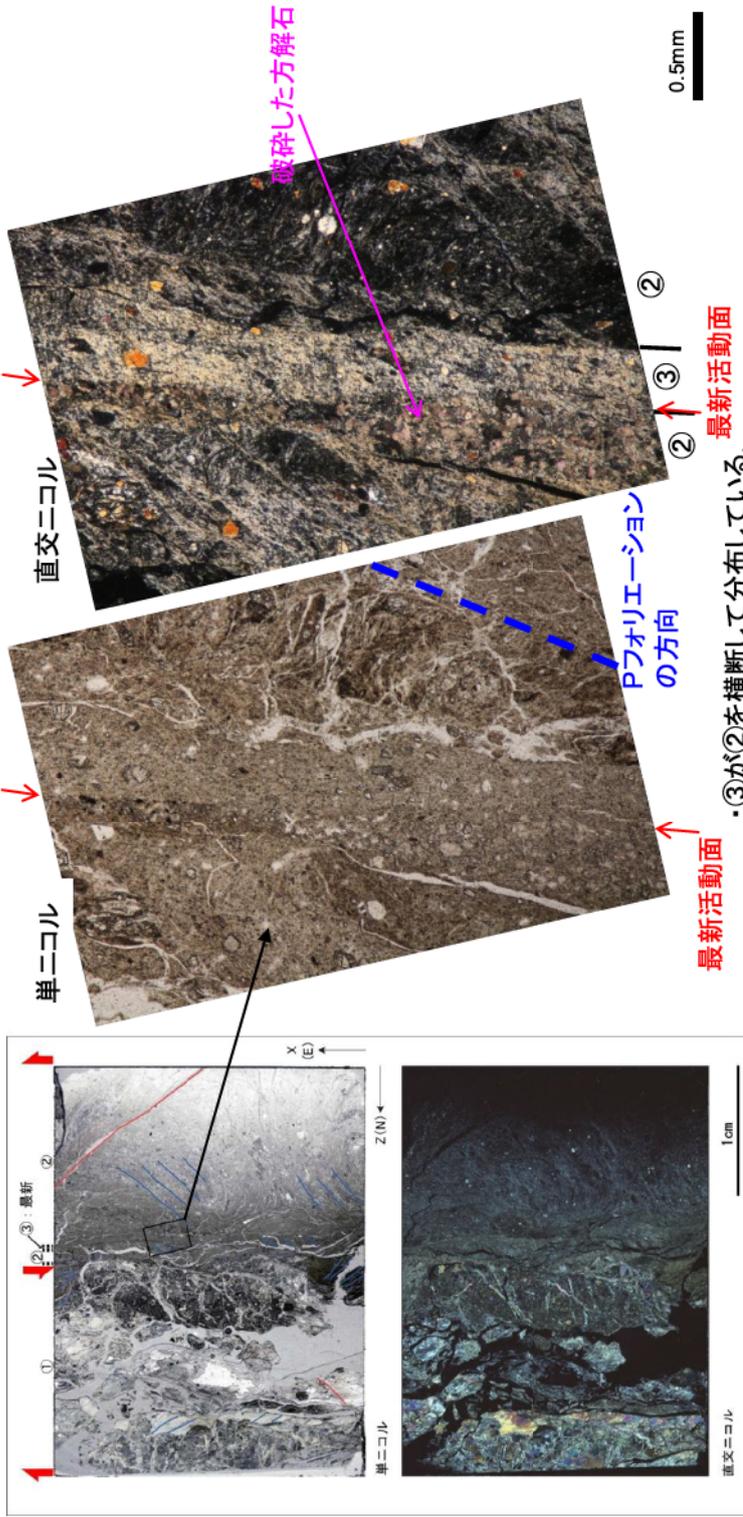
研磨片 (縦ずれ成分観察用)



研磨片観察結果 (縦ずれ成分)

- ・超苦鉄質岩を原岩とする角礫状破砕部及び粘土状破砕部からなる。
- ・最新活動面 (Y面) 直近では正断層センスの変形組織が連続的に認められる。
- ・最新活動面付近及びその外側の領域では逆断層センスの変形組織が点在している。

変形組織の観察(岸谷リニアメント 横ずれ成分観察用薄片)

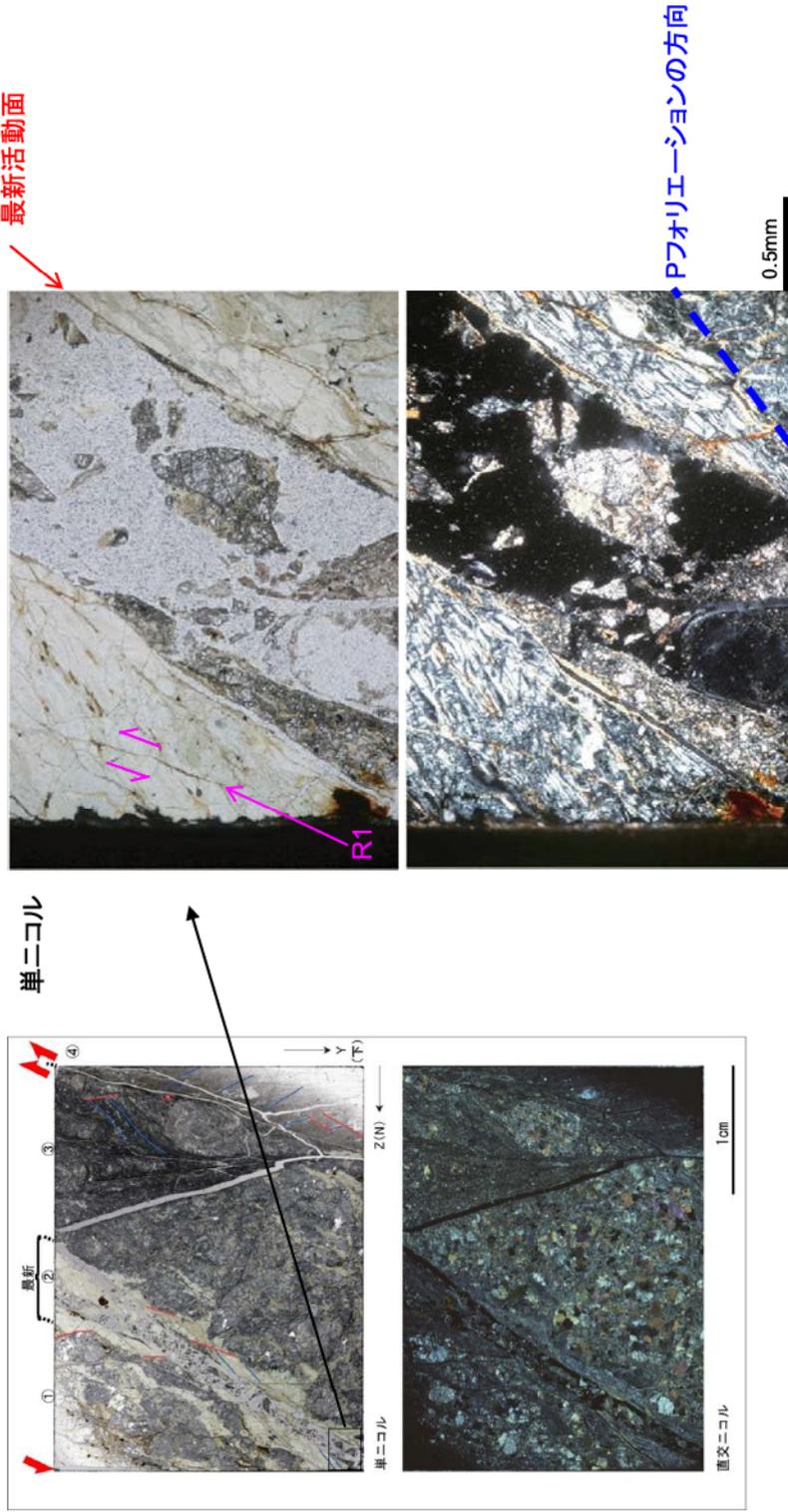


- ・③が②を横断して分布している。最新活動面
- ・破碎した方解石が認められる。
- ・②と③に左横ずれ成分を示すPフォリエーションが認められる。

薄片観察結果 (横ずれ成分)

- ・分帯：①中～粗粒カタクレーサイト (②直近で、一部に粘土状破砕部が認められる)、②砂礫混じり粘土状破砕部、③粘土状破砕部 (最新)
- ・分帯は破砕度とY面、破砕構造に基づく。
- ・①中の粘土状破砕部は②に切れフラグメント化している。
- ・①のカタクレーサイト・粘土状破砕部は樹枝状に成長した方解石脈により横断されており、②と③は方解石脈に横断されず方解石脈を破砕している。
- ・③が②を横断して分布していることから、③が最新であることがわかる。
- ・①では右横ずれ成分を示すR1面とPフォリエーションが認められる。
- ・②と③に左横ずれ成分を示すR1面やPフォリエーションが認められる。
- ・以上のことから、断層活動は右横ずれ成分から左横ずれ成分に反転した可能性がある。

変形組織の観察(岸谷リニアメント 縦ずれ成分観察用薄片)

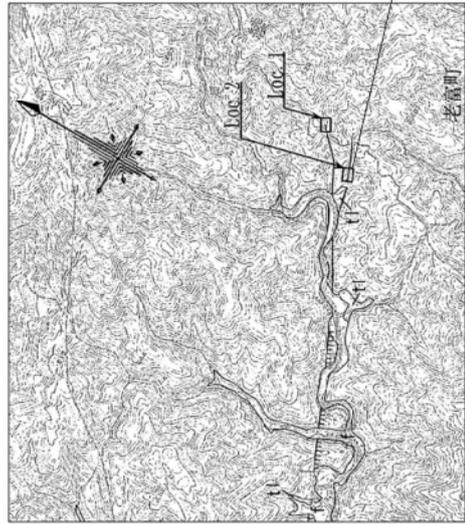


岸谷リニアメント
縦ずれ成分観察用

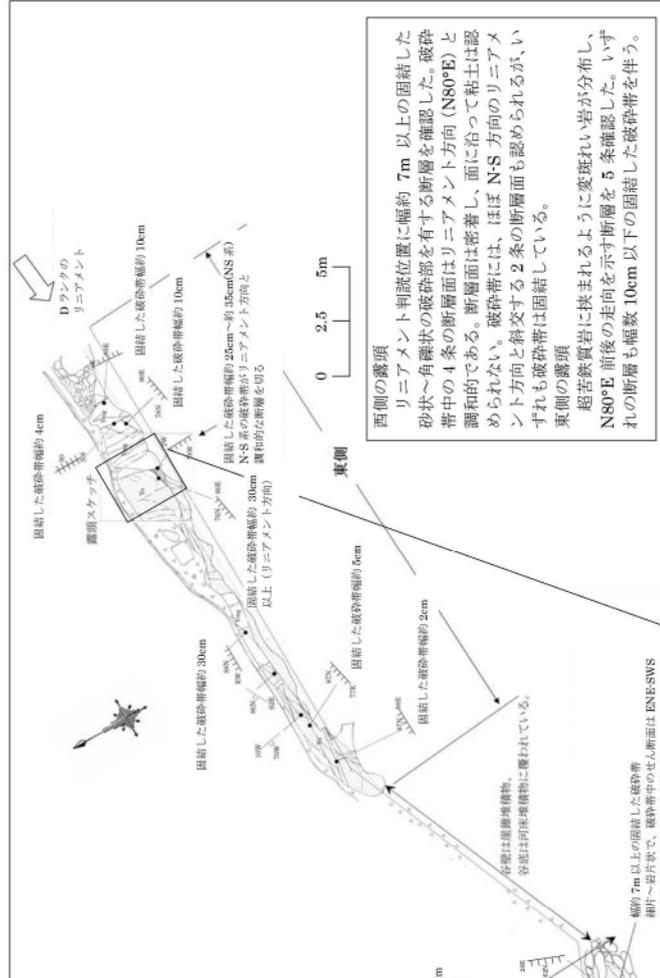
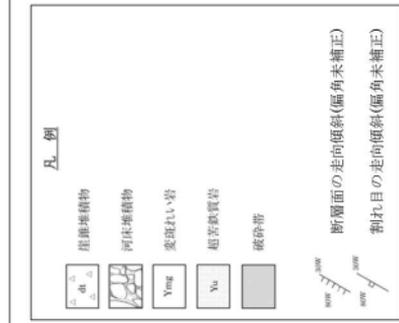
- ・最新活動面は②中に分布する。
- ・②中に正断層成分を示すR1面やPフォリエーションが認められる。

薄片観察結果 (縦ずれ成分)

- ・分帯：①粗粒カタクレーサイト、②粘土状破砕部 (最新、基質に蛇紋石を含む)、③中粒カタクレーサイト (フラグメント濃集部)、④砂礫混じり粘土状破砕部
- ・分帯は破砕度とY面、テクスチャーによる。
- ・最新活動面は②中に分布する。
- ・②の外側に位置する④は、連続性のないY面 (縦ずれ成分観察用研磨片で確認：白矢印) に沿う。さらに④は、横ずれ成分観察用薄片の② (砂礫混じり粘土状破砕部) に相当する。横ずれ成分観察用薄片で砂礫混じり粘土状破砕部は粘土状破砕部 (最新) に横断される。
- ・②と③に正断層成分を示すR1面やPフォリエーションが認められる。
- ・④に逆断層成分を示すR1面やPフォリエーションが認められる。
- ・以上のことから、断層活動は逆断層成分から正断層成分に反転した可能性がある。

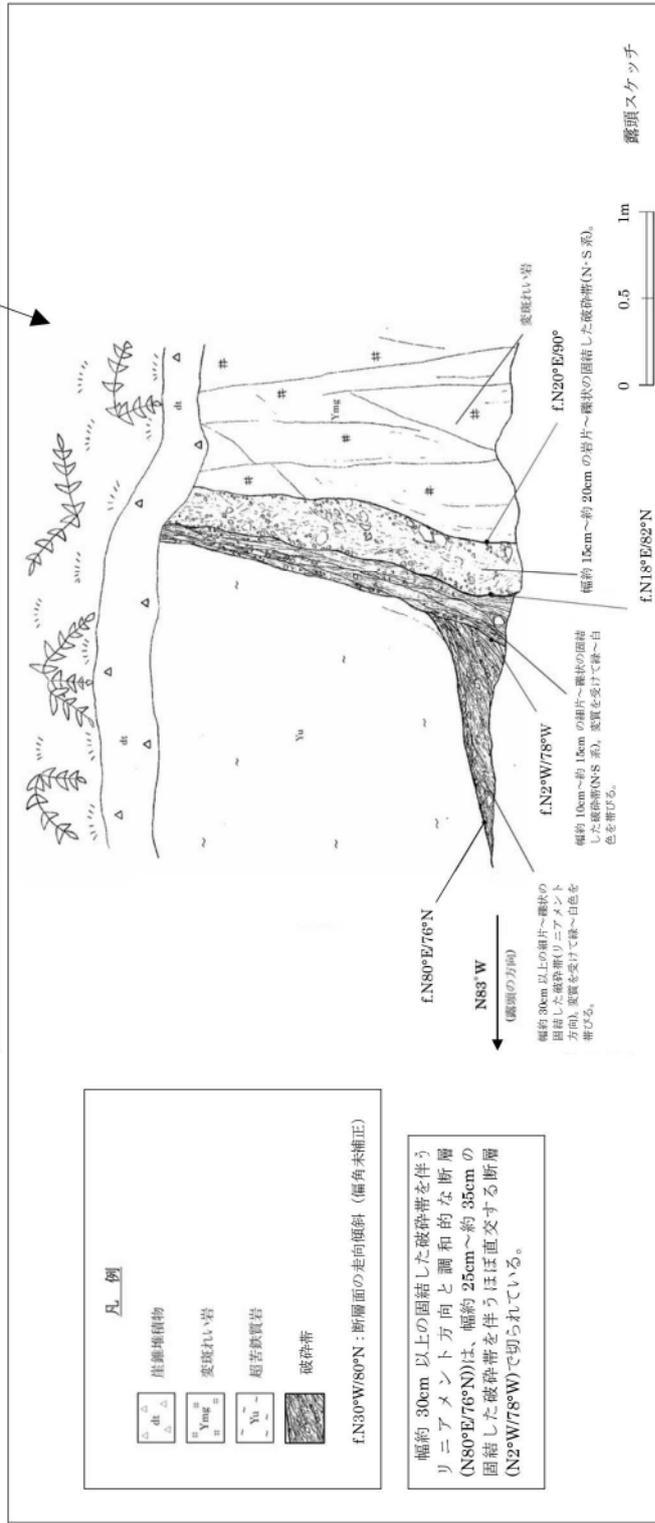


露頭位置図



西側の露頭
 リニアメント判読位置に幅約7m以上の固結した砂状〜角礫状の破碎部を有する断層を確認した。破碎帯中の4条の断層面はリニアメント方向(N80°E)と調和的である。断層面は密着し、面に沿って粘土は認められない。破碎帯には、ほぼNS方向のリニアメント方向と斜交する2条の断層面も認められるが、いずれも破碎帯は固結している。
東側の露頭
 超苦鉄質岩に挟まれるように斑斑れい岩が分布し、N80°E前後の走向を示す断層を5条確認した。いずれの断層も幅数10cm以下の固結した破碎帯を伴う。

ルートマップ



第3.2.109 図 岸谷リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ (Loc. 2)



地形面の凡例

tm	中位段丘面
tl	低位段丘面
f	新期扇状地面
dt	崖錐面
a	沖積面
r	人工改変地

変動地形・リニアメントの凡例

Dラング

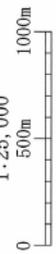
短線は低い側を示す。矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。

谷の屈曲

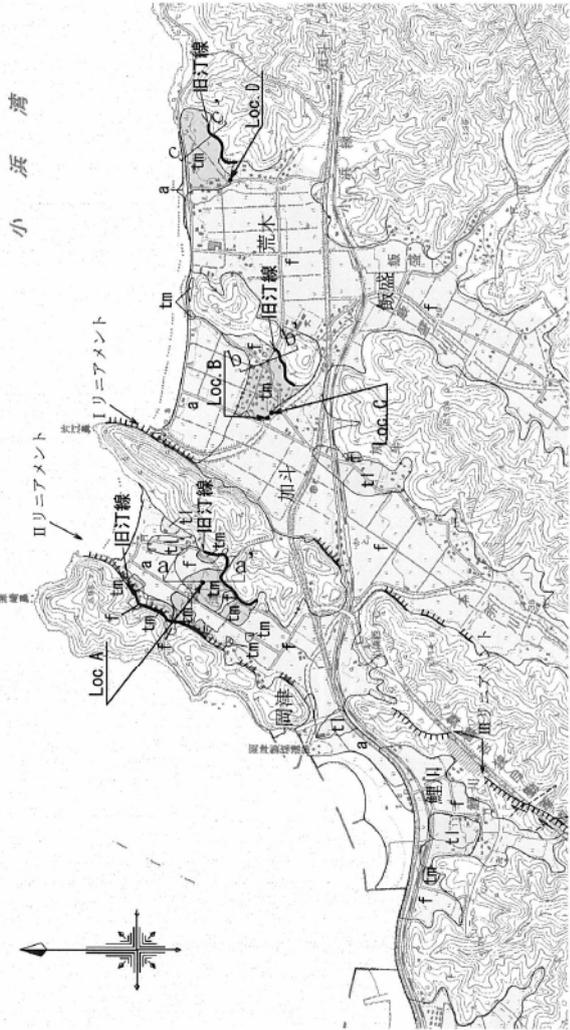
I リニアメント番号

Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)

表示範囲

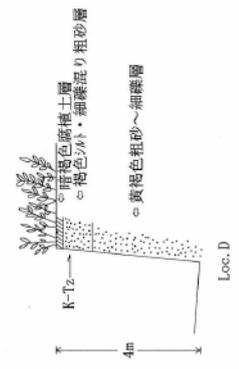


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情復、第259号)」



海成中位段丘分布図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情発、第259号)」



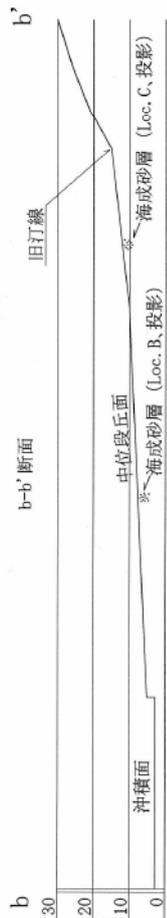
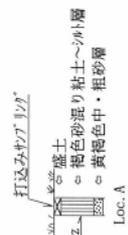
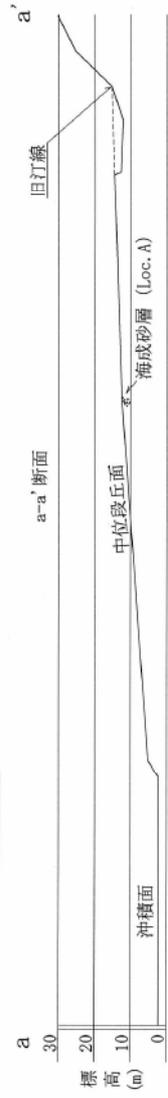
模式断面図

凡例

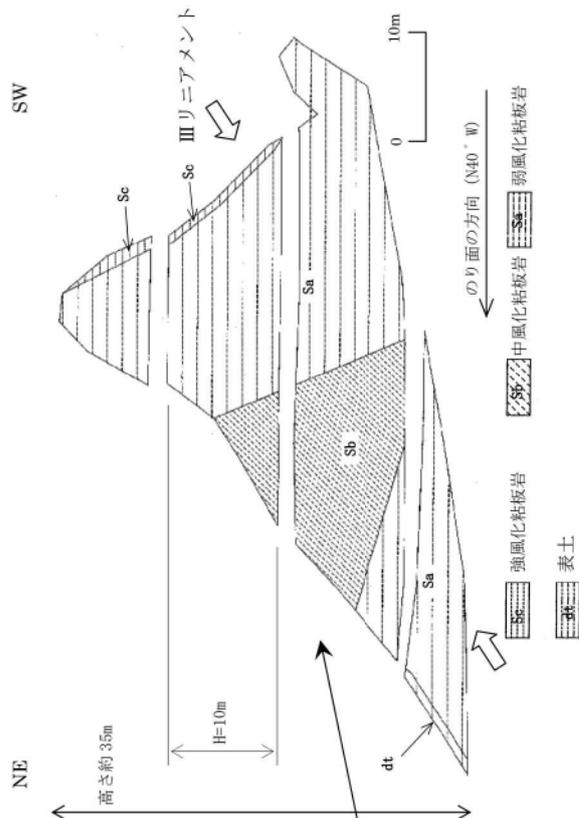
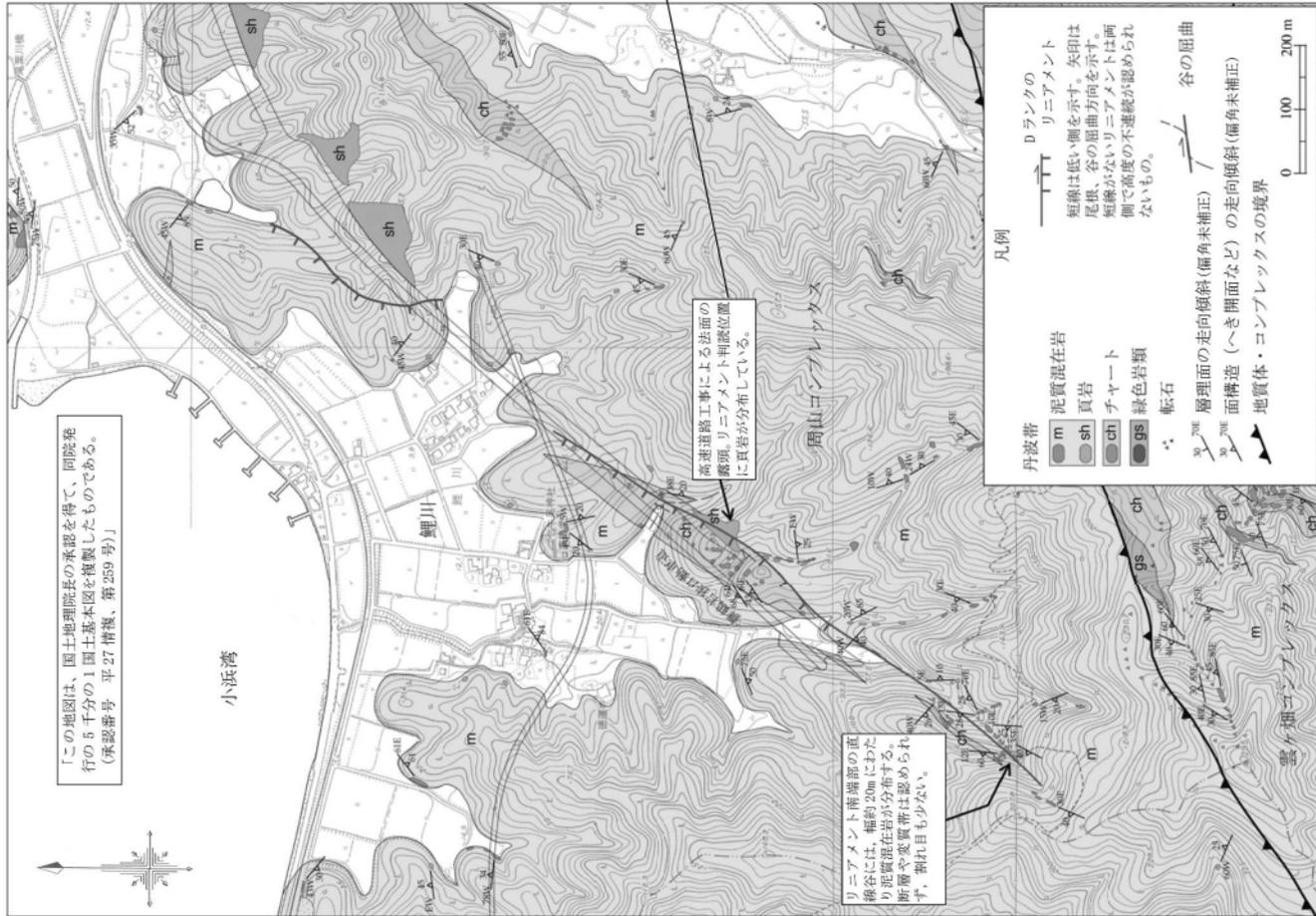
- tm 中位段丘面
- tl 低位段丘面
- f 新期扇状地面
- a 沖積面
- Dランクのリニアメント

短線は低い側を示す。矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。

- 旧汀線
- 断面線
- Loc. A 海成段丘堆積物確認位置
- K-Tz → K-Tz降灰層準 (火山灰分析結果)



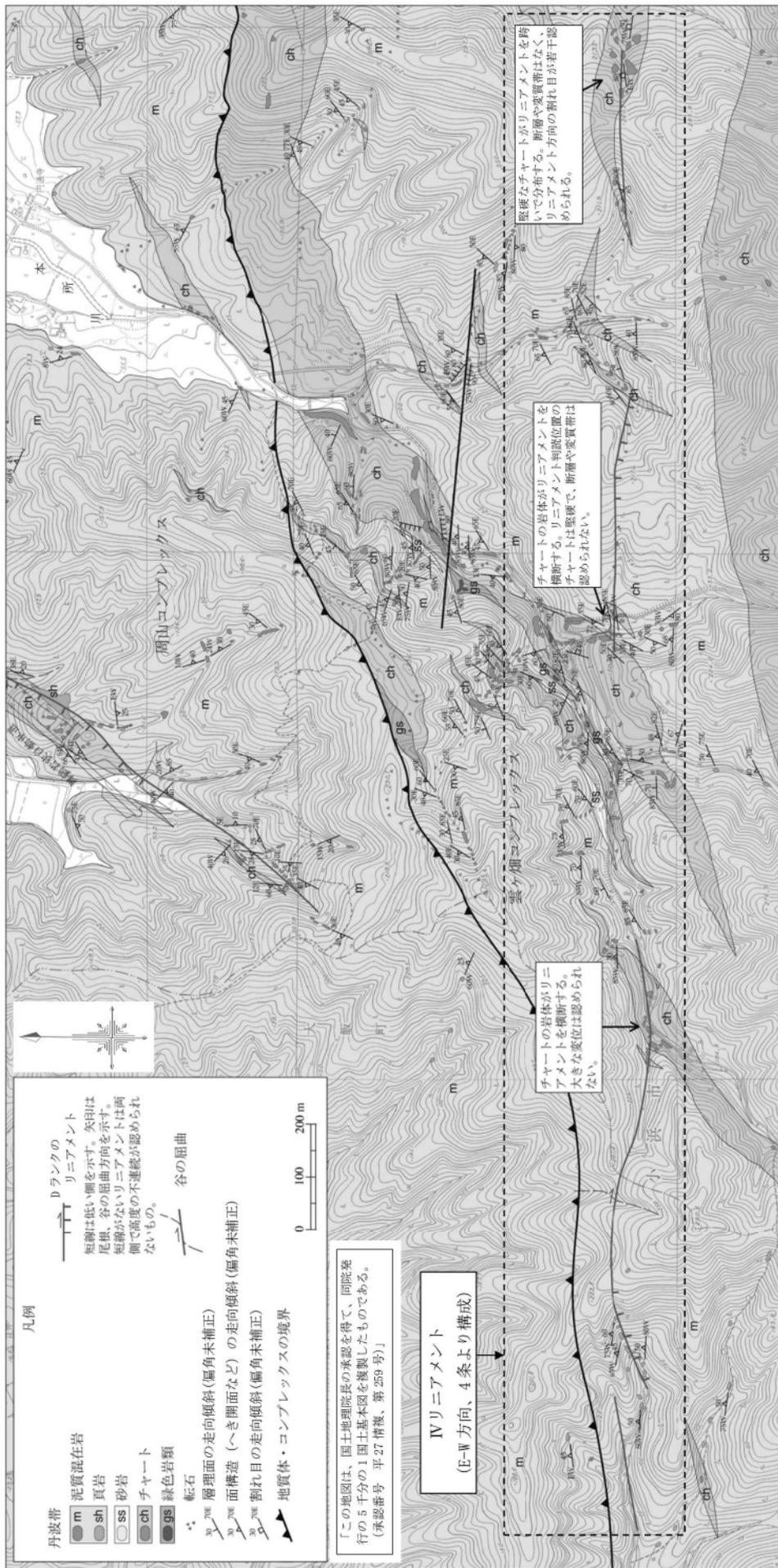
第3.2.113図 加斗リニアメント周辺の海成中位段丘分布図



(西日本高速道路株式会社殿より提供頂いた舞鶴若狭自動車道工事記録に加筆)

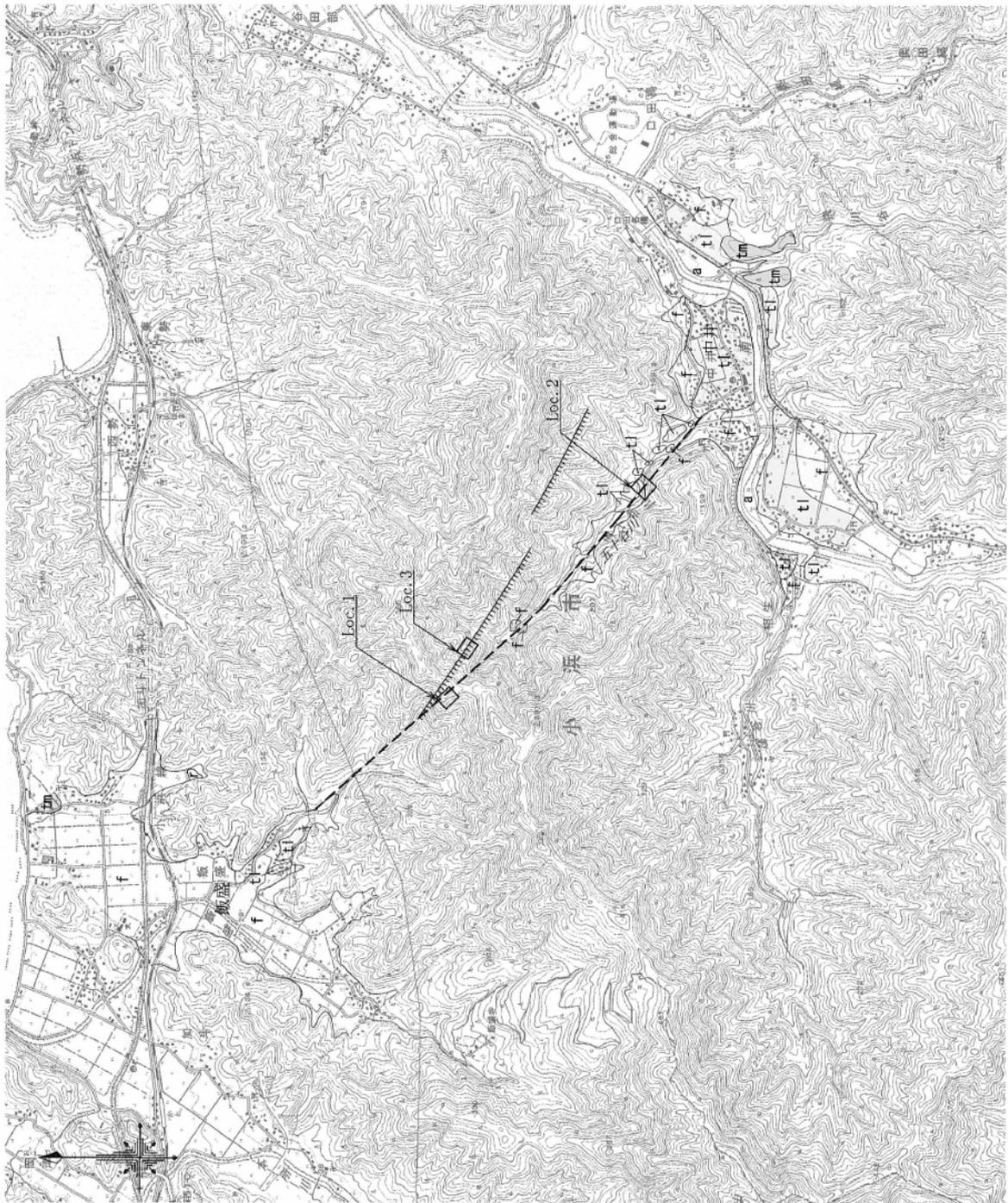
IIIリアメント沿いの鯉川南方において、2箇所の谷の右屈曲の間に位置する、リアメント判読位置にある高速道路路切土法面(長さ約70m)の施工記録によれば、北西向きの法面には一部やや風化を受けた頁岩が分布しているが、断層は記載されていない。

第3.2.114図 加斗リアメント ルートマップ・法面スケッチ (IIIリアメント)



IVリニアメント沿いの本所川上流地域では、丹波帯の泥質混在岩、チャーコート、緑色岩類、砂岩が分布する。リニアメントを横断して分布するチャーコートには断層や変質帯は認められず、断層を示唆する変位はみられない。

第3.2.115図 加斗リニアメント ルートマップ (IVリニアメント)



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平27情標、第259号)」

1:25,000
0 500m 1000m

地形面の凡例

tm	中位段丘面
tl	低位段丘面
f	新期扇状地面
a	沖積面
r	人工改変地

変動地形・リニアメントの凡例

— Dラング
短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。

--- 主なリニアメント
岡田・東郷編(2000)^(註)に記載されている断層組織地形を転記したもの

Loc 詳細調査位置 (レートマップ、スケッチ等)

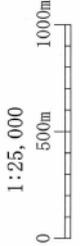
□ 表示範囲



凡例

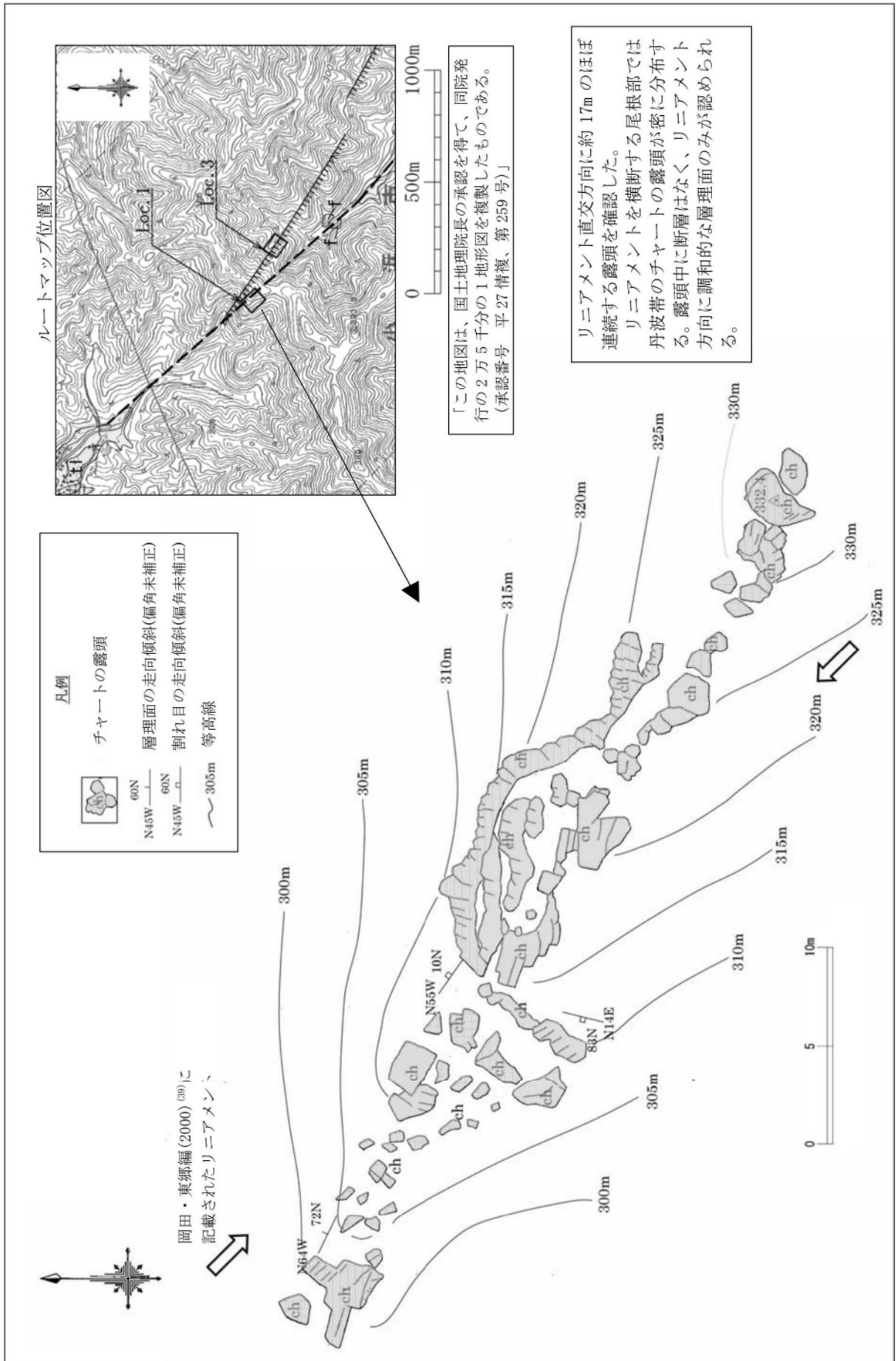
人工改変地	f	礫、砂及び泥
沖積層	a	礫、砂及び泥
新期扇状地堆積物	tl	礫、砂及び泥
低位段丘堆積物	tm	礫、砂及び泥
更新世	Hx	泥質珪岩及び頁岩
完新世	Hs	砂岩
	Hc	チャート
	Hg	緑色岩類
丹波帯	Kx	泥質珪岩及び頁岩
霧ヶ畑	Ks	砂岩
コンプレックス	Kg	チャート
	Kk	緑色岩類
周山	Sx	泥質珪岩及び頁岩
コンプレックス	Sc	チャート
	Sg	緑色岩類

断層
 伏在断層
 地質体・コンプレックスの境界
 面構造 (へき開面など) の走向傾斜 (偏角未補正)
 断層面の走向傾斜 (偏角未補正)
 Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
 表示範囲

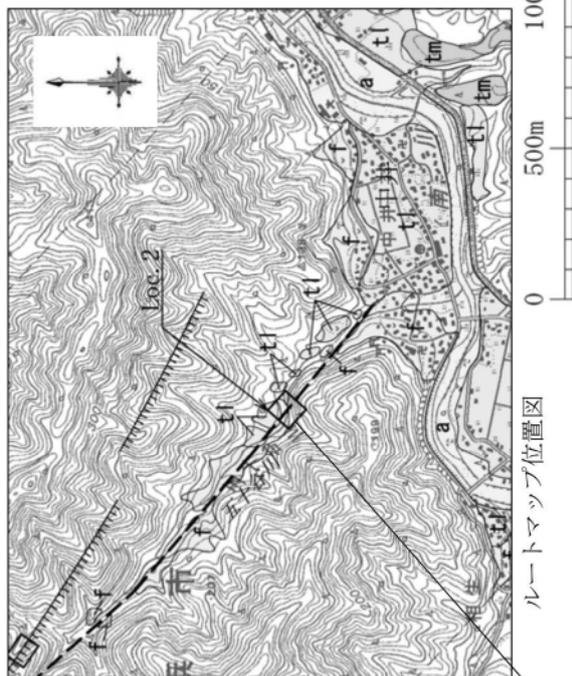


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情報、第239号)」

第3.2.117図 中井リニアメント周辺の地質図

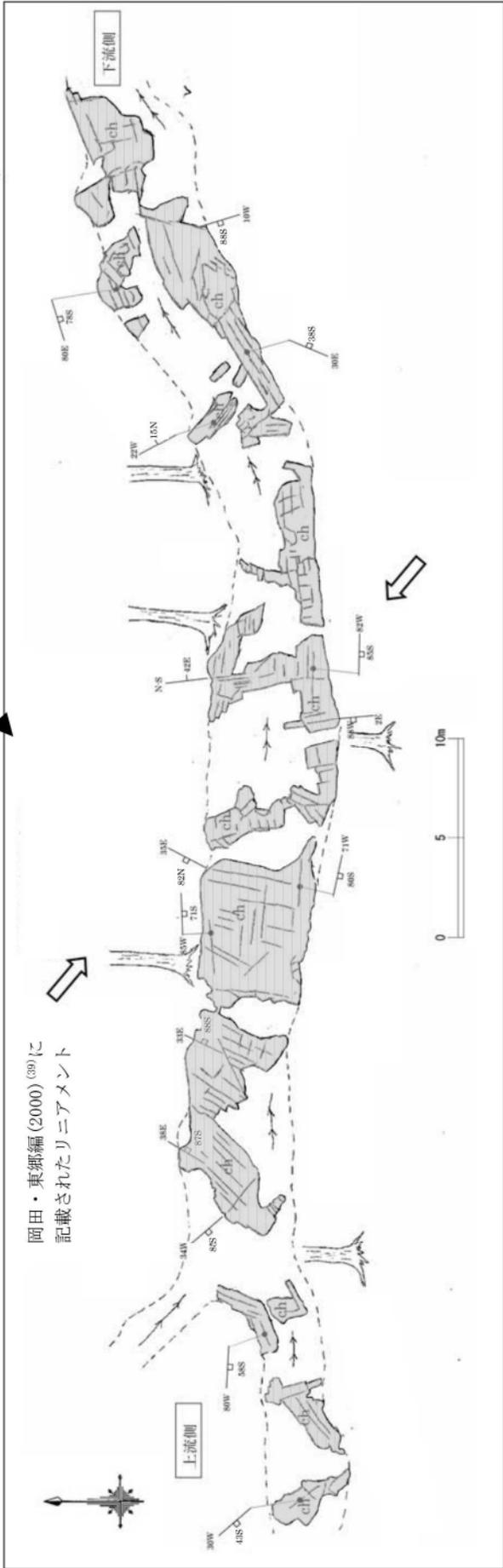
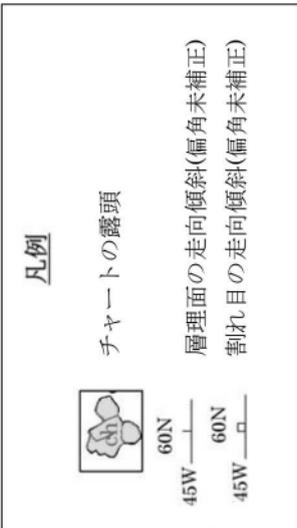


第3.2.118図 中井リニアメント ルートマップ(Loc.1)

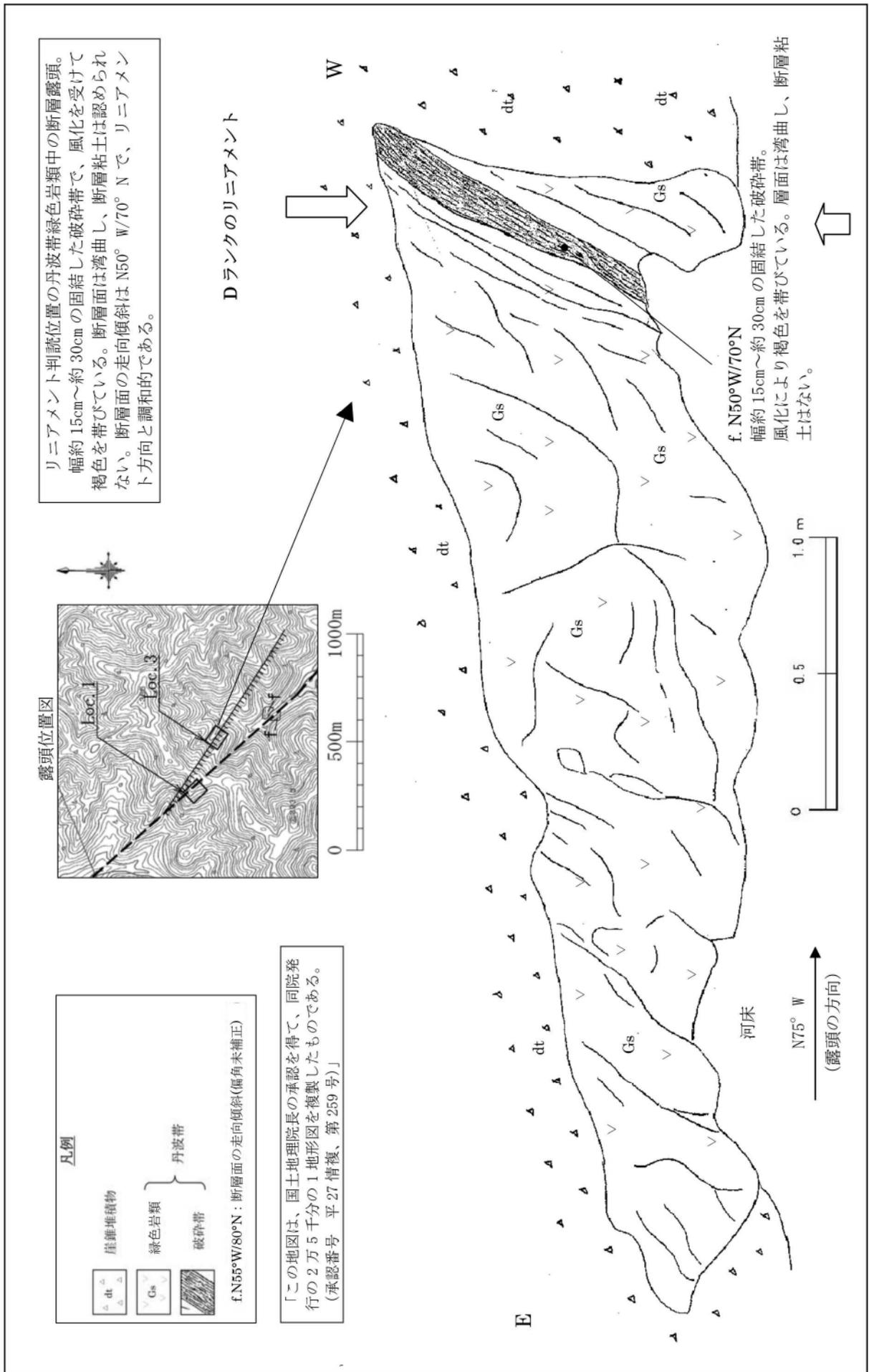


リニアメント直交方向に長さ約 55m のほぼ連続した露頭を確認した。
河床にはチャートの露頭が密に分布し、断層は認められない。割れ目の方向とリニアメントの方向は一致しない。

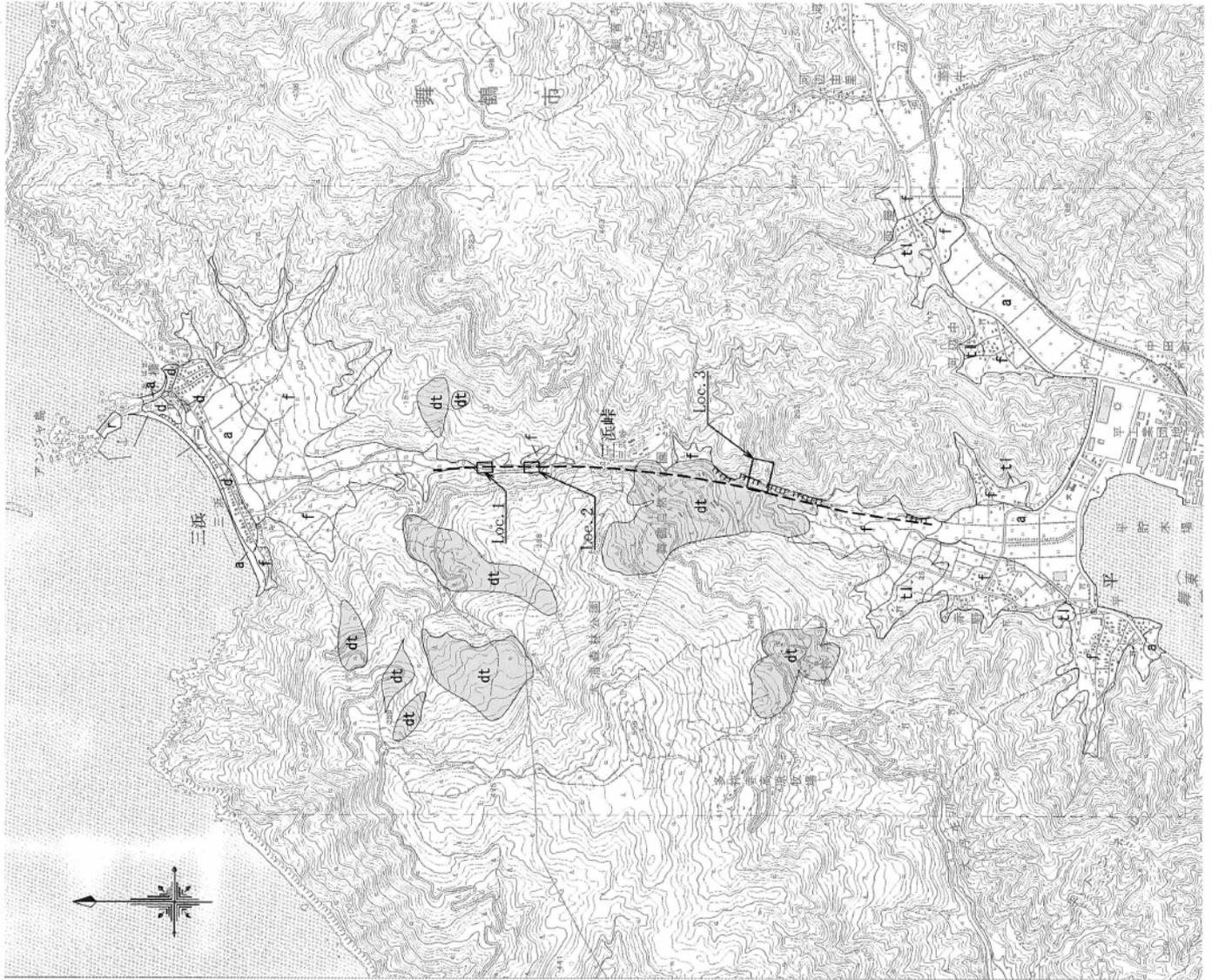
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図を複製したものである。(承認番号 平 27 情復、第 259 号)」



第 3.2.119 図 中井リニアメント ルートマップ(Loc. 2)



第3.2.120図 中井リニアメント 露頭スケッチ (Loc. 3)

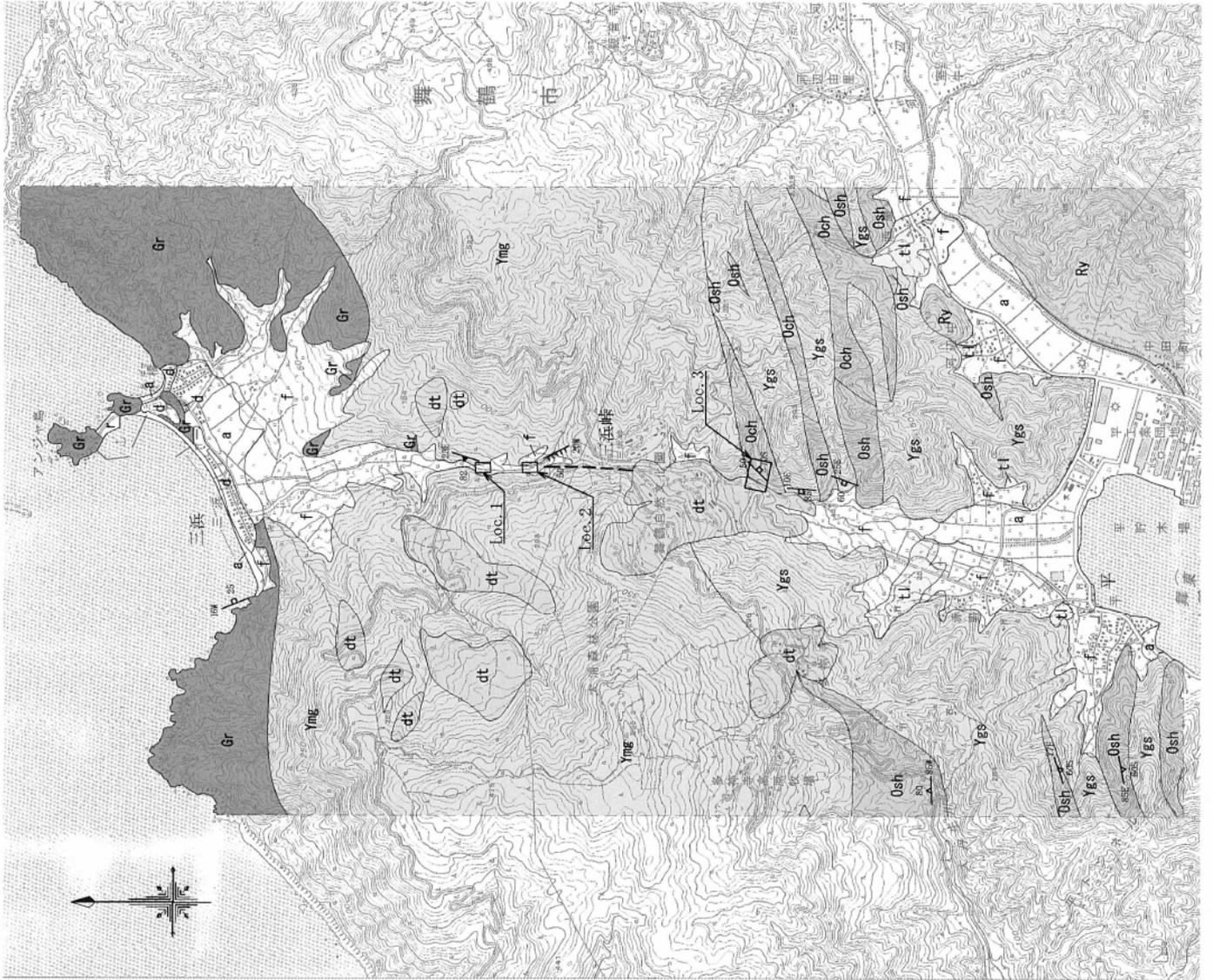


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平27情復、第259号)」

1 : 25,000
0 500m 1000m

- 地形面の凡例
- tl 低位段丘面
 - f 新期扇状地面
 - dt 崖錐面
 - a 沖積面
 - d 砂丘
 - r 人工改変地

- 変動地形・リニアメントの凡例
- Dラング
短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
 - 主なりニアメント
岡田・東郷編(2000)¹⁰⁹⁾に記載されている断層組織地形を転記したものの
 - Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
 - 表示範囲



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情報、第259号)」

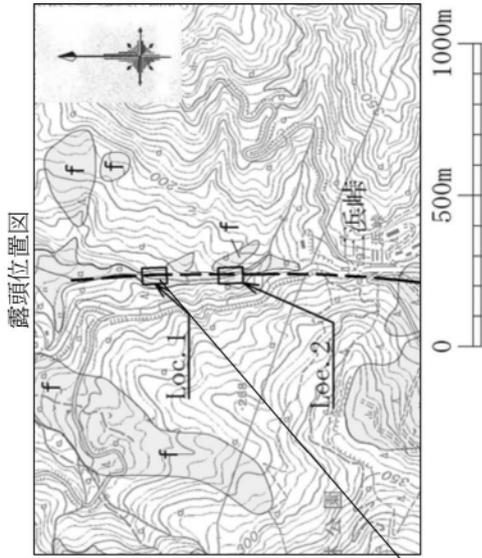
1 : 25,000
0 500m 1000m

凡例

人工改変地	r	砂
砂丘堆積物	d	礫、砂及び泥
沖積層	a	礫、砂及び泥
崖壁堆積物	dt	礫、砂及び泥
新期扇状地堆積物	f	礫、砂及び泥
低位段丘堆積物	t1	礫、砂及び泥
宮津花崗岩	Gr	花崗岩
音海流紋岩	Ry	流紋岩
舞鶴帯	Osh	頁岩
夜久野	Och	チャート
オファイオライト	Yes	緑色岩類
	Yng	変斑れい岩 (緑色岩類を伴う)

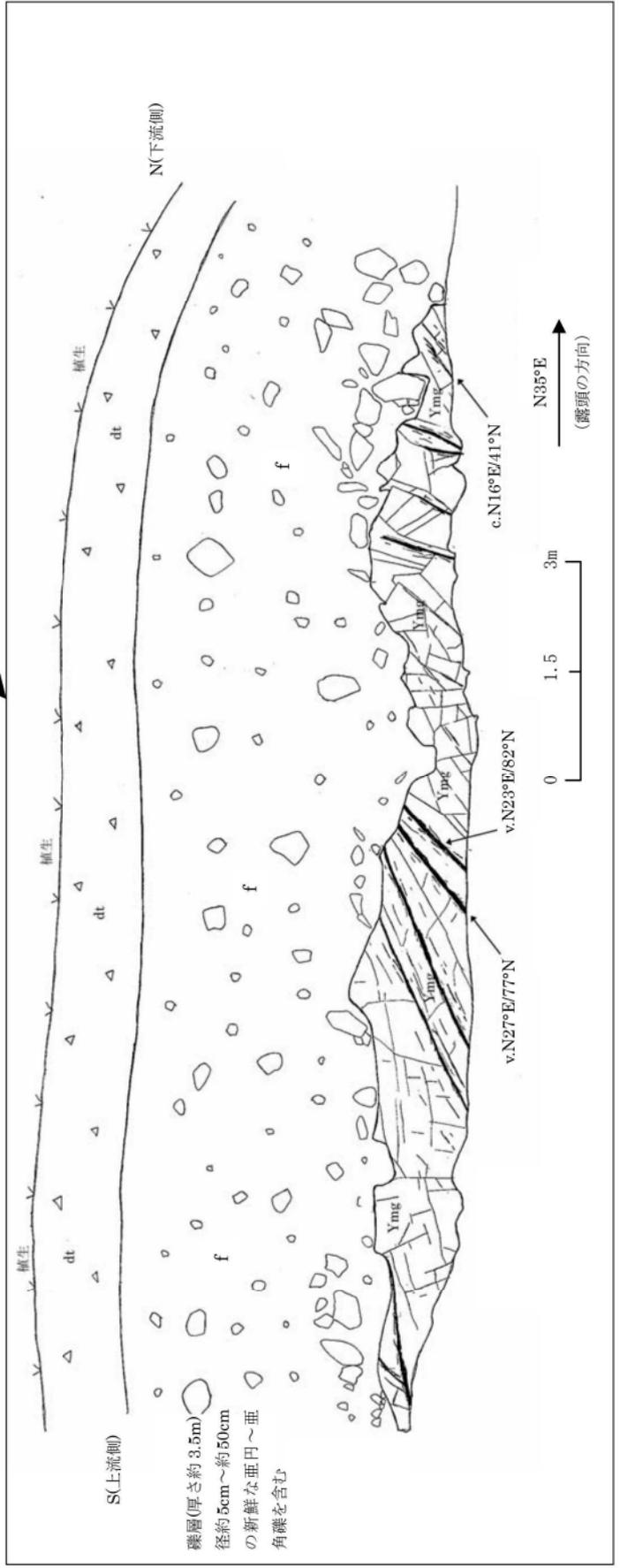
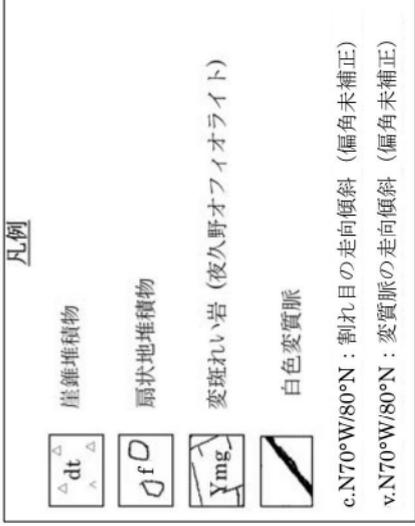
--- 推定断層
 45° 30' 面構造 (へき間面など) の走向傾斜 (偏角未補正)
 45° 30' 割れ目の走向傾斜 (偏角未補正)
 45° 30' 変質部の走向傾斜 (偏角未補正)
 45° 30' 断層面の走向傾斜 (偏角未補正)
 Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
 [] 表示範囲

第3.2.122図 三浜峠リニアメント周辺の地質図 6-3-385



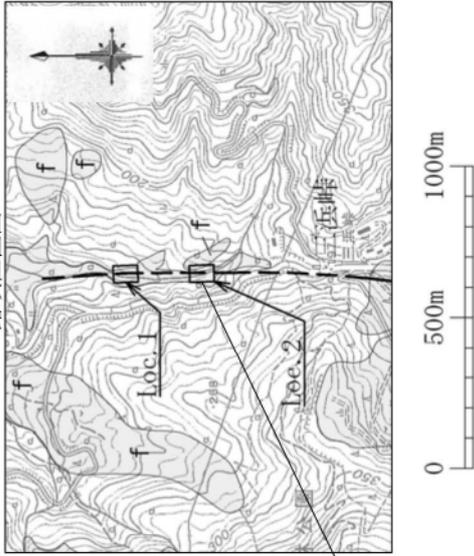
リニアメント記載位置付近で剥ぎ取り調査を実施し、夜久野オフィオライトの変斑れい岩を確認した。
 変斑れい岩中には割れ目を充填する白色変質脈が複数認められるが、断層は認められない。割れ目の走向傾斜は、概ねN16° ~27° E/41° ~82° Nで、リニアメント方向と概ね調和的である。また、幅数cmの白色変質脈は周辺の岩盤に比べてやや脆い。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平 27 情復、第 259 号)」



第 3.2.123 図 三浜峠リニアメント 露頭スケッチ (Loc. 1)

露頭位置図



リニアメント記載位置付近で剥ぎ取り調査を実施し、夜久野オフィオライトの緑色岩類中に固結した角礫状破砕部を有する断層を確認した。

断層主部近傍はやや細片化しており、断層から下流側(北側)に離れるに従って細片化の程度が弱くなり図の左側付近で緑色岩に漸移的に変化する。

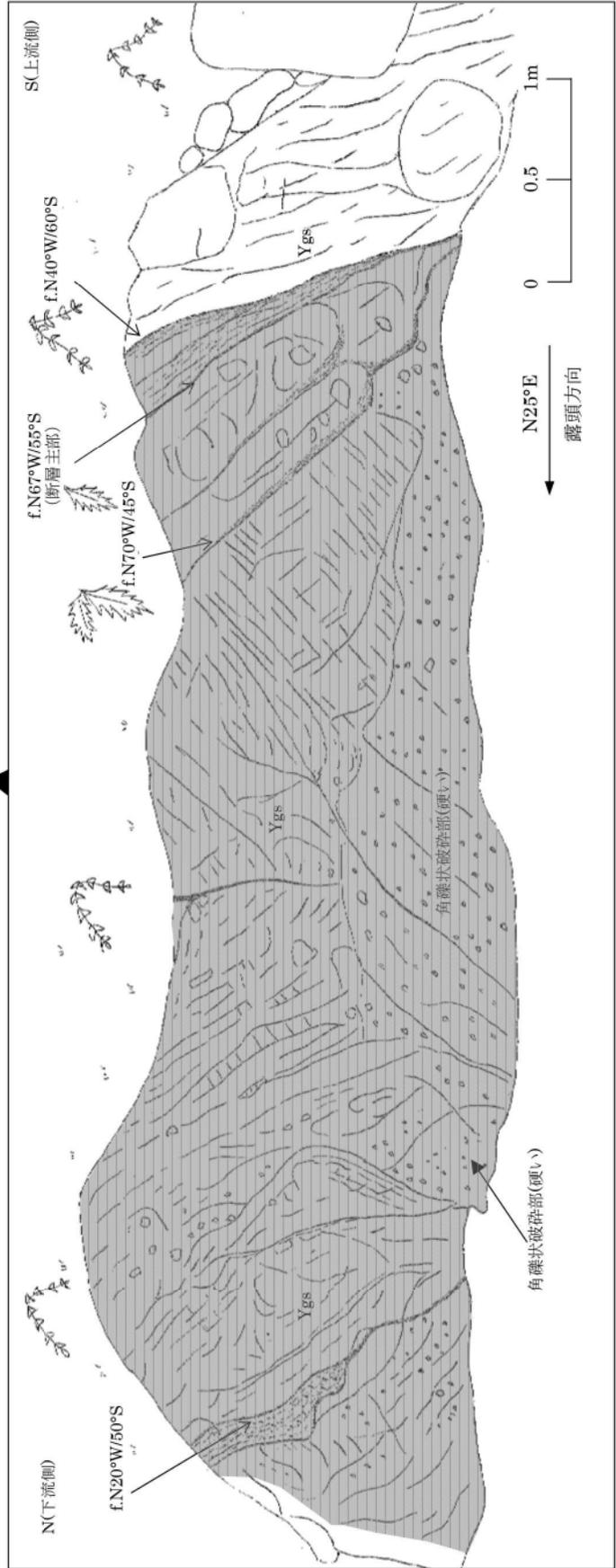
リニアメント方向に近い断層面 (N20°W/50°S) やリニアメントに斜交する断層面(N40°~70°W/45°~60°S)が認められるが、いずれも固結して湾曲し不明瞭である。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情復、第259号)」

凡例

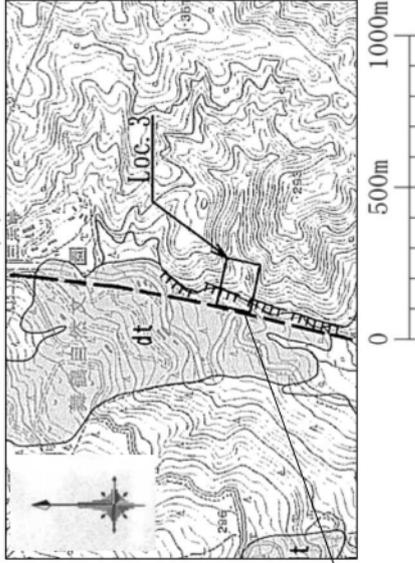
-  緑色岩類 (夜久野オフィオライト)
-  固結した弱破砕部
-  固結した細~角礫状破砕部
-  固結した砂~細礫状破砕部

f.N70°W/80°N : 断層面の走向傾斜 (偏角未補正)



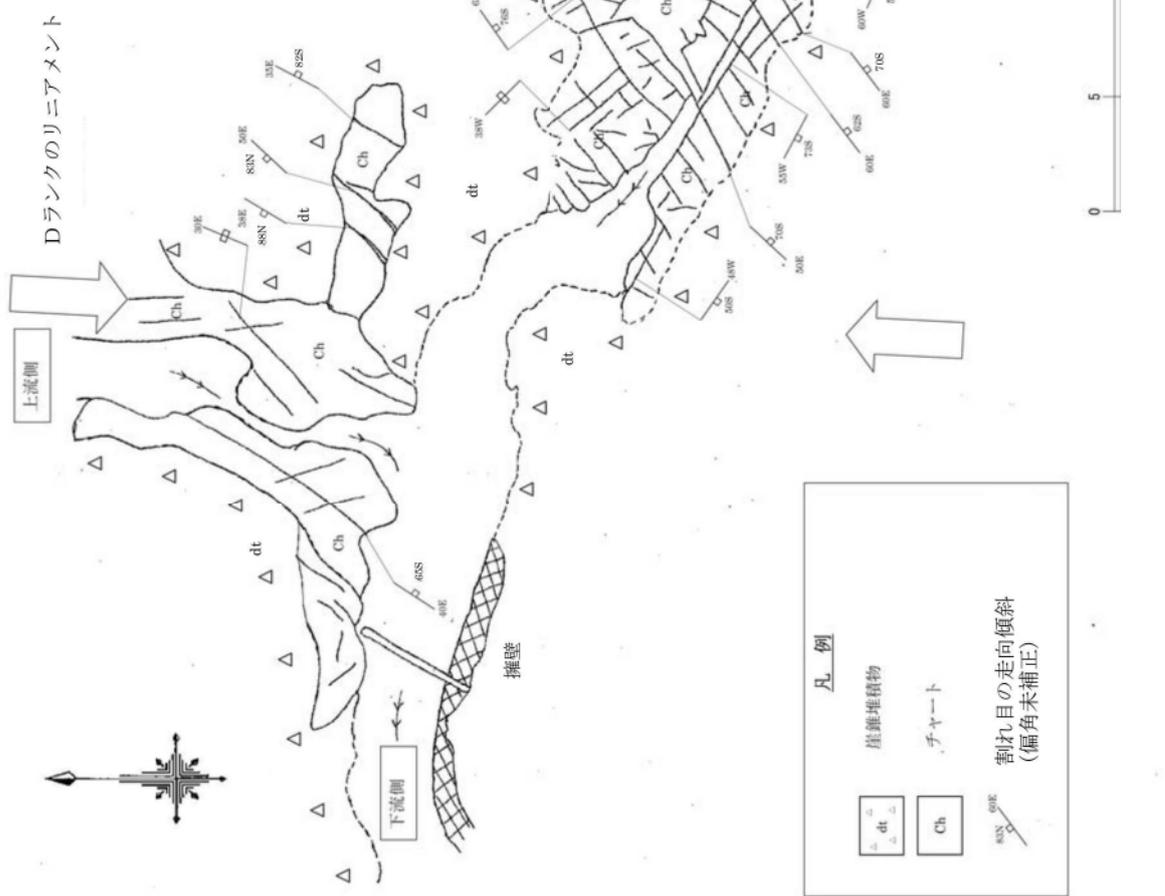
第3.2.124図 三浜峠リニアメント 露頭スケッチ (Loc.2)

ルートマップ位置図



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平27情復、第259号)」

谷床部でリニアメント直交方向に長さ約60mのチャートの連続露頭を確認。
走向 N30° ~60° E 方向と、走向 N38° ~60° W 方向の2方向の割れ目が卓越する。
断層や破砕帯及び変質帯は認められない。



凡例

	崖堆積物
	チャート
	割れ目の走向傾斜 (偏角未補正)

第3.2.125図 三浜峠リニアメント ルートマップ (Loc. 3)



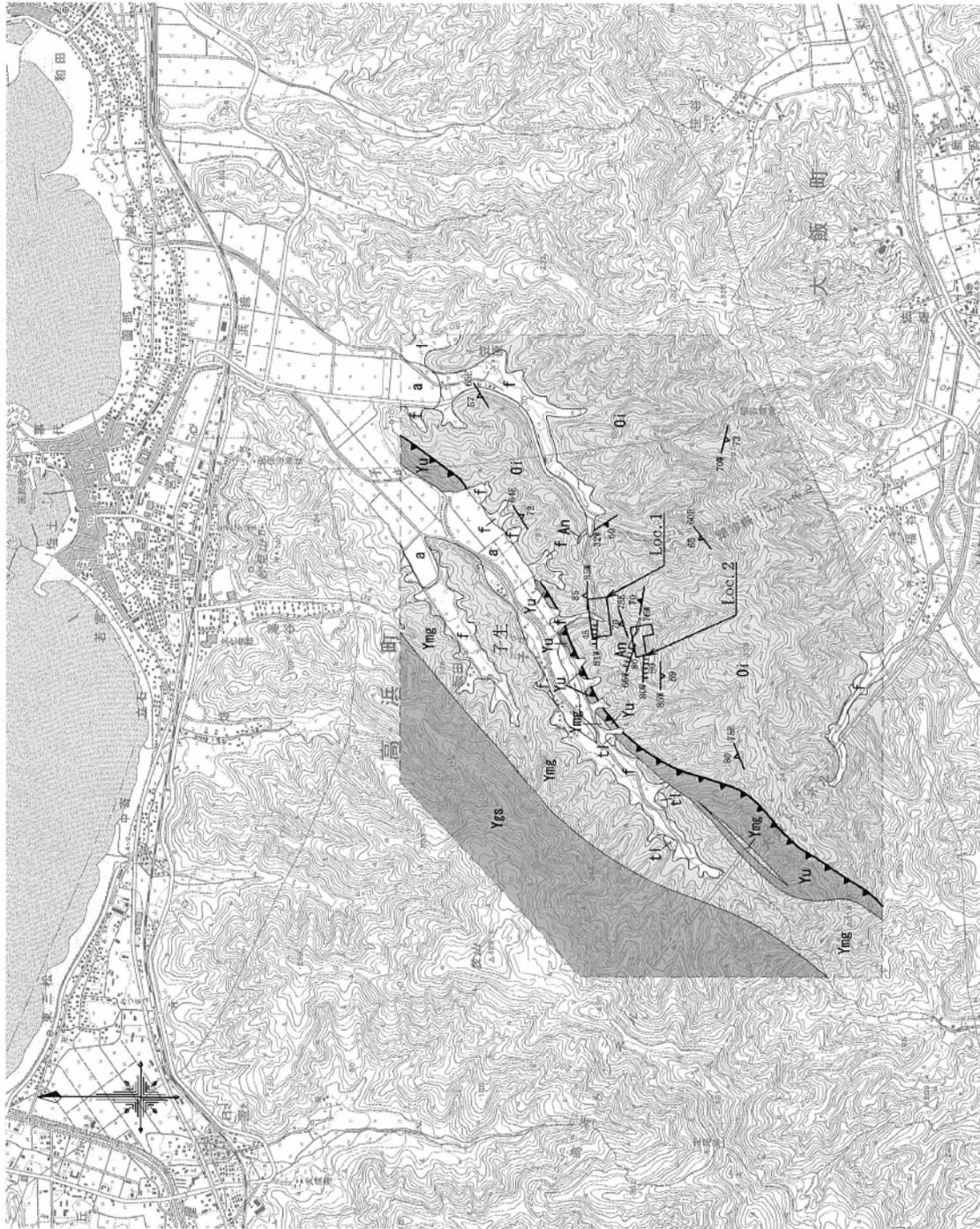
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情復、第259号)」

地形面の凡例

- t 低位段丘面
- f 新期扇状地面
- a 沖積面

変動地形・リアメントの凡例

- Dラング
短線は低い側を示す。短線がないリアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
- 主なリアメント
岡田・東郷編(2000)TMに記載されている
断層組織地形を転記したものの
- Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
- 表示範囲

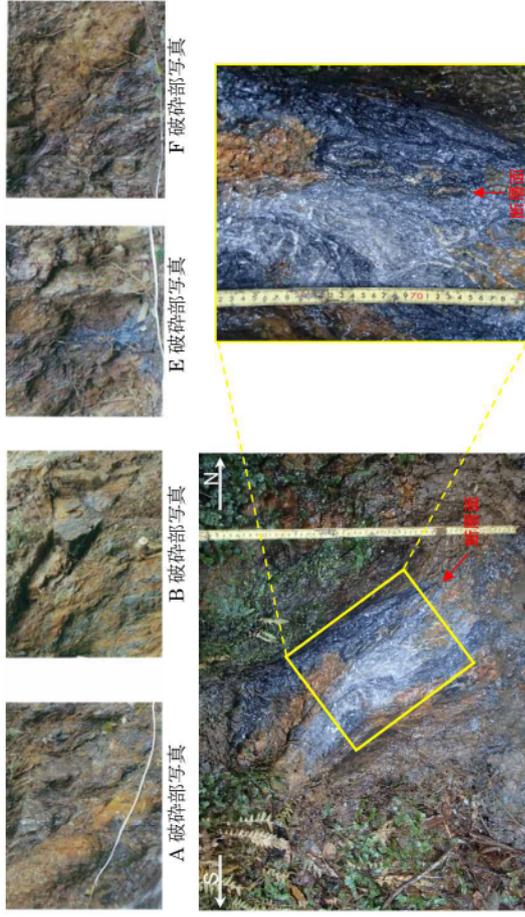
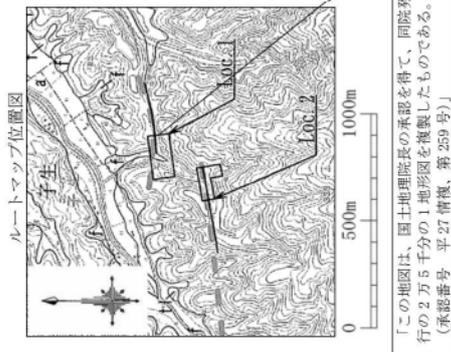


凡例

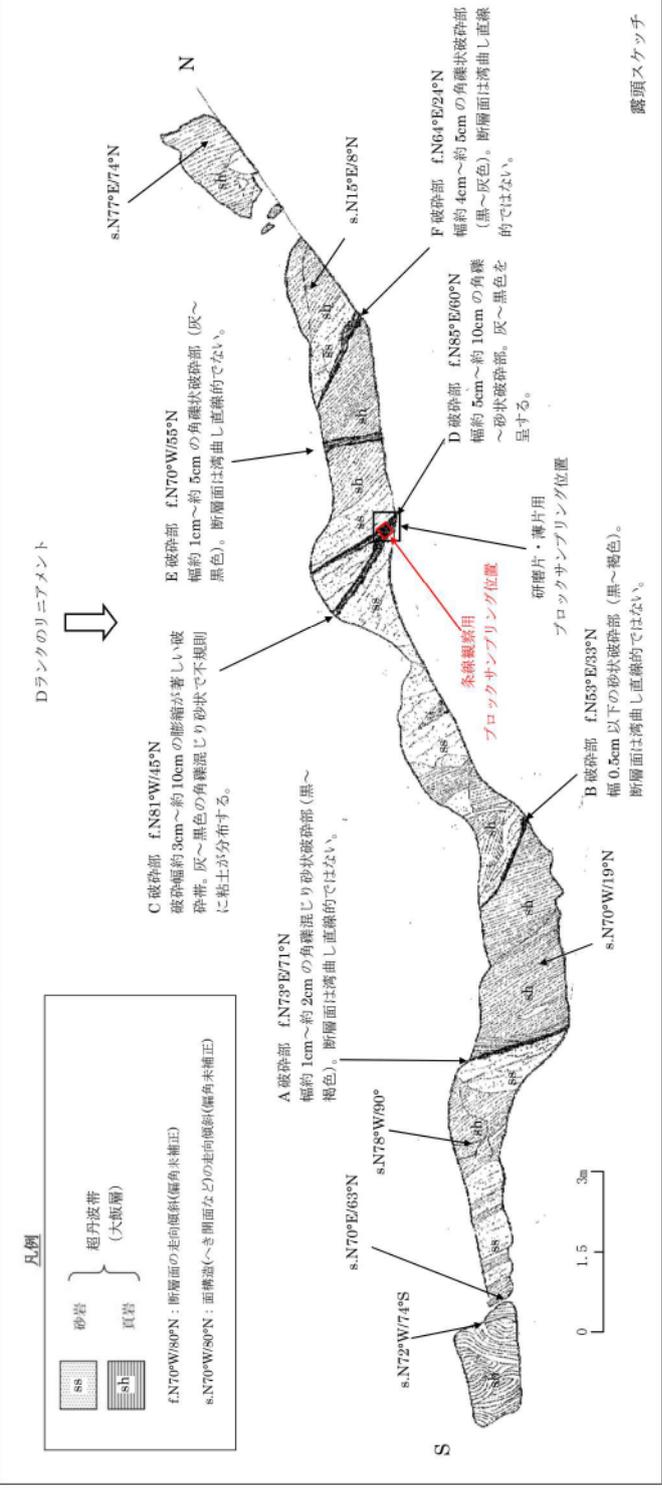
- 第四紀 [完新世 [沖積層
 - a 礫、砂及び泥
 - f 礫、砂及び泥
 - t1 礫、砂及び泥
- 更新世 [新期扇状地堆積物
 - f 礫、砂及び泥
 - t1 礫、砂及び泥
- 新第三紀-古第三紀 [低位段丘堆積物
 - An 安山岩
 - O1 頁岩 (砂岩・チャートを伴う)
- ヘルム紀 [舞鶴帯 超丹波帯
 - Yng 緑色岩類
 - Yu アフオオライト
- ヘルム紀 [舞鶴帯 超丹波帯
 - Yng 変斑れい岩
 - Yu 超苦鉄質岩
- 地質体・コンプレックスの境界
 - 45° 30' 面構造 (へき開面など) の走向傾斜 (偏角未補正)
 - 45° 30' 貫入面の走向傾斜 (偏角未補正)
 - 45° 30' 断層面の走向傾斜 (偏角未補正)
- Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
- 表示範囲

1:25,000
0 500m 1000m

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情報、第259号)」



C、D 破砕部写真 C 破砕部が D 破砕部をせん断する。
逆断層成分を示す引きずり構造と R1 面
(観察面の勾配 70° E)



本地点はリニアメントを挟んで約 20m の連続露頭である。
地質は超丹波帯の頁岩と砂岩で、6ヶ所の破砕部が認められる。断層面の走向は N53° E ~ N70° W でリニアメント方向(N80° E)と概ね調和的である。断層面は湾曲や凹凸を示す。各破砕部は幅数 cm ~ 10cm 程度で破砕された頁岩が角礫混じり砂状ないし角礫状を呈する。
リニアメント判読位置には C 破砕部と D 破砕部が認められる。C 破砕部は C 破砕部にせん断される。C 破砕部中の灰白色粘土(幅 1cm ~ 2cm)を伴う断層面でブロックをサンプリングし、菱形組織の観察及び条線観察を実施した。

第 3.2.128 図 子生リニアメント 露頭スケッチ (Loc. 1)